J 1

公立 中学校・高等学校

男女共学実施状況調査

文　部　省

初等中等教育局中等教育課

1 9 5 0

国立教育研究所

9 7 1 2 0 4 6 9 6

国立国会図書館

目　次

I　全国男女共学実施状況……(1)

（1）中学校における男女共学……(2)

（2）高等学校の通常の課程における男女共学……(3)

（3）高等学校の定時制の課程における男女共学……(5)

II　調査学校における男女共学の実態調査……(7)

（1）共学に対する生徒の賛否……(8)

（2）共学に対する教師の賛否……(15)

（3）共学に対する地域社会の賛否……(19)

（4）共学によつて最も効果のあると思われる生徒活動……(25)

（5）共学にした方が指導し易い教科……(25)

（6）男女の学力差……(26)

（7）共学後に見られる学力の変化……(33)

（8）共学後の学習態度……(36)

（9）共学後の学校内の雰囲気……(39)

(10) 共学が原因となつた不良化の問題……(41)

(11) 共学後の性意識……(43)

序

米国教育使節団の「小学校を男女共学の基ばんとして経営する‥‥(中略)。六ケ年の小学校の次に三ケ年のあらゆる男女生徒のための下級中学校を創設し‥‥(中略)この学級は事情の許す限りなるべく早く男女共学にするがよい‥‥(中略)更に三年生の上級中学校を設置し、‥‥行く行くは男女共学制を採り云々」という報告並びに教育基本法第五條の「男女は互に敬重し、協力し合わねばならない」という規定に明示される男女共学の原則は従來の中等学校教育に一大変革を加えるものであつた。

男女共学実施後未だ日も浅く、その運営に種々の工夫研究を要すべき問題があると思われるので全国における男女共学の実態を調査することとし、昭和24年10月6日附文初中89号通達によつて同年9月30日現在の状態を調査してこれをまとめたのがこの調査書内容である。

内容は2部に分けられ　第Ⅰ部は各都道府県の管下全校についての調査であり、第Ⅱ部は各都道府県毎に、中学校5校、高等学校通常の課程5校(都市、農村、漁村、商業地、工業地に各1校づつ)高等学校定時制の課程2校(分校は中心校に包括した)を抽出して調査したものである。

なお後者について調査した学校数は次の通りである。

中　学　校	201校
高等学校(通常の課程)	207校
高等学校(定時制の課程)	90校
計	498校

本調査書においては調査の結果を資料として提供するにとどめ、解釈や対策についてはふれないこととした。

終りに本調査に協力せられた各都道府県教育委員会当局並びに学校当局に対し深甚の謝意を表する。

なお大阪府の報告が第Ⅰ部全国男女共学実施状況調査に間に合わなかつた関係上遺かんながら省略した。

昭和25年3月

文部省初等中等教育局中等教育課

Ⅰ 全国男女共学実施状況

(1) 中学校における男女共学

6－3－3の新学校制度の実施に先立つて通達された「新学校制度実施準備の案内」（昭和22年2月17日附発学第63号）には

「官公立の中学校においてはなるべく男女共学とする。男女共学は男女間の社会的関係を正常にし、両性の平等を促す上からも、また経済的見地からも推しようされるからである。しかしこの原則を採用するかどうかを決定するにはその学校への就学範囲にある市町村民の意見を尊重すべきである‥‥（後略）」

といつている。

しかしながら、この調査によつて明りようになつたことは、この三ケ年間に殆んどすべての中学校は男女共学を実施しているということである。次に時間的にこの経過をたどつてみることとしよう。

昭和21年度

男女共学について全国にさきがけたのは京都府、大分縣の2県であつて、4月にその所管下の370校に共学を実施した。そのほか福島県、香川県において合計15校の男女共学実験学校が設けられた。

昭和22年度

以上の4縣につづいて、翌22年度よりは前述の原則の下に多くの府縣が共学を実施するに至つたのである。すなわち、昭和22年4月現在において北海道、青森、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、富山、石川、福井、山梨、愛知、三重の一部、滋賀、兵庫、和歌山、鳥取、島根、香川、高知、長崎、宮崎の25の都道縣下の6757校、1月遅れて同年5月には新潟、徳島の二県下の551校に実施され、越えて昭和23年1月には秋田県の241校に実施された。

昭和23年度

昭和23年度における狀況は次の通りである。

4月に岩手、岐阜、静岡、廣島、福岡、熊本、鹿兒島の7県において1869校、5月には三重県における未実施校177校、9月には奈良県において149校に共学が実施された。

昭和24年度

千葉、佐賀の二県において4月その管下の458校に共学を実施したのをしんがりにこの間長野、岡山、山口、愛媛の4県下の1369校がその希望によつて進んで共学を実施している。

従つて昨年9月30日現在で全国12.007校中男女共学を實施している学校は11.958校、実施していない学校は49校となる。ところで未実施數というのは施設、設備の関係上やむを得ず男女が1教室で一しよに学習し得ないということであつて、男女別に收容している学校を意味するのではないから全国の公立中学校は凡て男女共学であるといつてよいのではなかろうか。

男女共学実施狀況を学年別にみると次の通りである。

全学年実施……11785校
第1学年のみ実施……52校
第1.2学年のみ実施……116校
第1.3学年のみ実施……1校
第2学年のみ実施……1校
第2.3学年のみ実施……2校
第3学年のみ実施……1校

すなわち全学年実施が大部分を占めている。この点は高等学校の場合と大いに異る訳である。なお都道府県別についてみれば別表の通りである。

(2) 高等学校の通常の課程における男女共学

前掲の「新学校制度実施準備の案内」に

「高等学校においては、必ずしも男女共学でなくてもよい。男子も女子も教育上は機会均等であるという新制度の根本原則と、地方の実情なかんずく地方の教育的意見を尊重して、高等学校における男女共学の問題を決すべきである。すなはち男女共学については、教員の問題、財政の問題、設備の問題、あるいはまたその学校の所在する地方の意見等あらゆる事項を考慮の中に入れて取り計らう必要があるとともに男女共学とは、單に男子と女子とを同一の学校や同一の教室へ入れるだけでなく、更に進んで日常生活並びに交際においても男子と女子とが互に人格として尊重し合うようにしなければならない。」といつている。

高等学校は旧制中等学校が母体となつて設置され、旧制中等学校は男女別学の長い伝統を有していたという点において共学実施の様相は中学校の場合と大いに相違せざるを得なかつた。

すなわち、この調査によると全国1.826校のうち共学は1.056校である。これを年度順におつてみると

昭和22年度

4月福井県の13校がもつとも早く、高知県がこれにつづき9月より18校について旧制中等学校のまゝで実施した。

昭和23年度

昭和23年4月高等学校が制度的に実施されるとともに岩手、滋賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島の6県下の135校が翌5月には三重県の一部と和歌山県の38校が共学を実施し、8月には岐阜県の27校、9月には富山、奈良の二県下の38校、10月には京都府の25校がそれぞれ共学を実施した。

昭和24年度

昭和24年4月に、茨城、千葉、石川、静岡、愛知、三重の一部、兵庫、鳥取、島根、山口、徳島、福岡、佐賀、長崎の14県の428校、廣島、香川の2県下の58校が翌5月にそれぞれ実施した。

高等学校は前述のような事情があつたので、各県とも共学実施にしん重を期し、実験学校における実験の結果をみてから実施するという段階をふんだ県が多い。すなはち香川縣は2校で実験の上昭和24年5月に12校に共学を実施し、佐賀県では4校の実験に基いて残りの15校全部が実施に入つている。また京都府では1校の実験学校を持つて25校全部が昭和23年10月に一斉に実施している。この外に実験学校を持つて目下実験中の県は青森、山形、福島、埼玉、東京、神奈川の都県で上述の3県を加えると全国における実験学校は122校となる。

以上のほか学校の自発的な希望によつて実施しているのは北海道、宮城、秋田、福島、栃木、埼玉、新潟、山梨、長野、岡山、愛媛の11道県でその校数は154校に上つている。

次に学年別に共学実施の狀況を見ると次の通りである。

全学年実施	667校
第1学年のみ実施	280校
第1.2学年のみ実施	108校
第2.3学年のみ実施	1校

これをみると全学年実施しているものが最も多く、新入生から実施に入つたものこれにつづいていることになる。

各都道府県別の内訳は次の通りである。

(3) 高等学校の定時制の課程における男女共学

高等学校の定時制の課程の場合は通常の課程とは運営が異るから男女共学についても通常の課程とはやゝ異つている。

すなわちこの調査によると全国1.315校のうち共学になつている学校は1.063校である。但しこの1.063校のうち北海道、長野県は中心校と分校とを区別してなく、また岐阜県が独立校のみを報告して来てるから、実際は下廻つていると思われる。

昭和23年度

昭和23年4月高等学校実施と共に青森、岩手、山形、福井、徳島、熊本、大分、宮崎、鹿児島の9県下の220校が翌5月には茨城、三重、廣島県の83校、翌6月には香川県の11校、9月には石川、山梨、岐阜、滋賀、京都、和歌山の6府県82校、11月には奈良の10校が実施に入つている。

昭和24年度

4月に千葉、静岡、愛知、兵庫、鳥取、島根、佐賀、長崎の8県下の133校、翌5月には群馬県の5校が実施している。

また通常の課程と同様に各県とも実験学校を設けてこの結果をみてから実施しているものが多い。

群馬県では12校で実験の上昭和24年5月に6校がこれにつづき、香川県では3校の実験学校の結果によつて昭和23年6月に11校が実施に入り、鹿児島県では2校の実験によつて39校が昭和23年4月に実施している。

この外に実験学校によつて目下実験中の県は福島、東京、神奈川3都県で上述の3県を加えると全国における実験学校は112校になる。

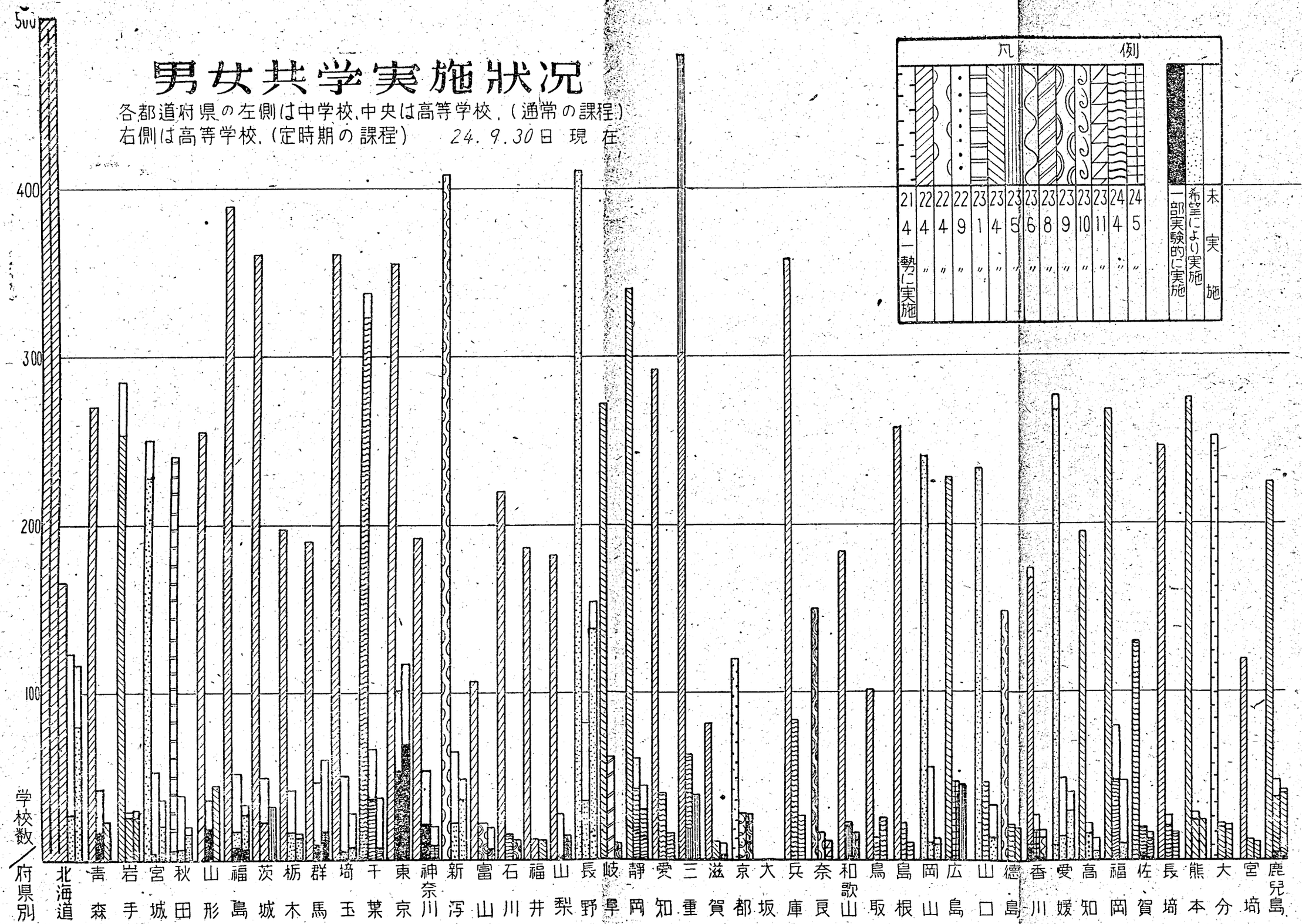
以上のほか学校の自発的な希望によつて実施しているのは北海道、宮城、秋田、栃木、埼玉、新潟、長野、岡山、山口、愛媛、高知、福岡の13道県の406校である。

次に学年別に共学実施の狀況を見ると次の通りである。

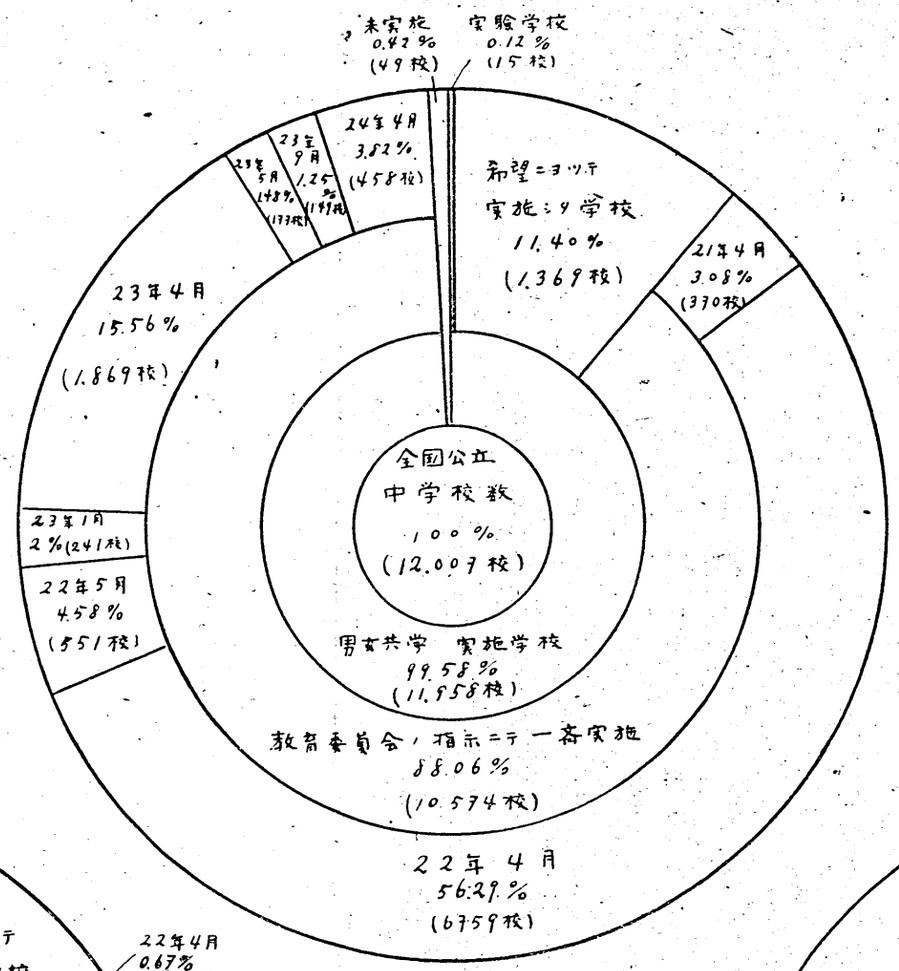
全学年実施	707校
第1学年のみ実施	114校
第1.2学年のみ実施	173校
第1.3学年のみ実施	1校
第1.4学年のみ実施	1校
第2.3学年のみ実施	6校
第3学年のみ実施	1校
第4学年のみ実施	1校
第1.2.3学年のみ実施	59校

男女共学実施状況

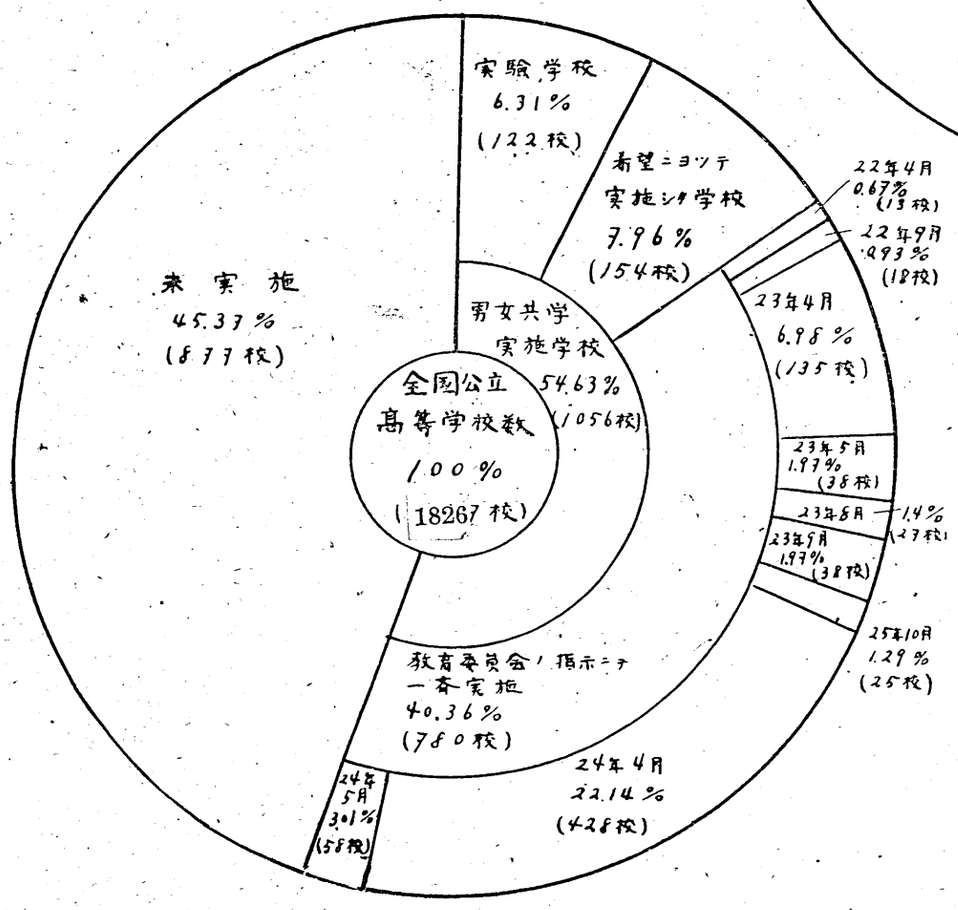
各都道府県の左側は中学校、中央は高等学校、（通常の課程）
右側は高等学校、（定時期の課程）　24.9.30日 現在



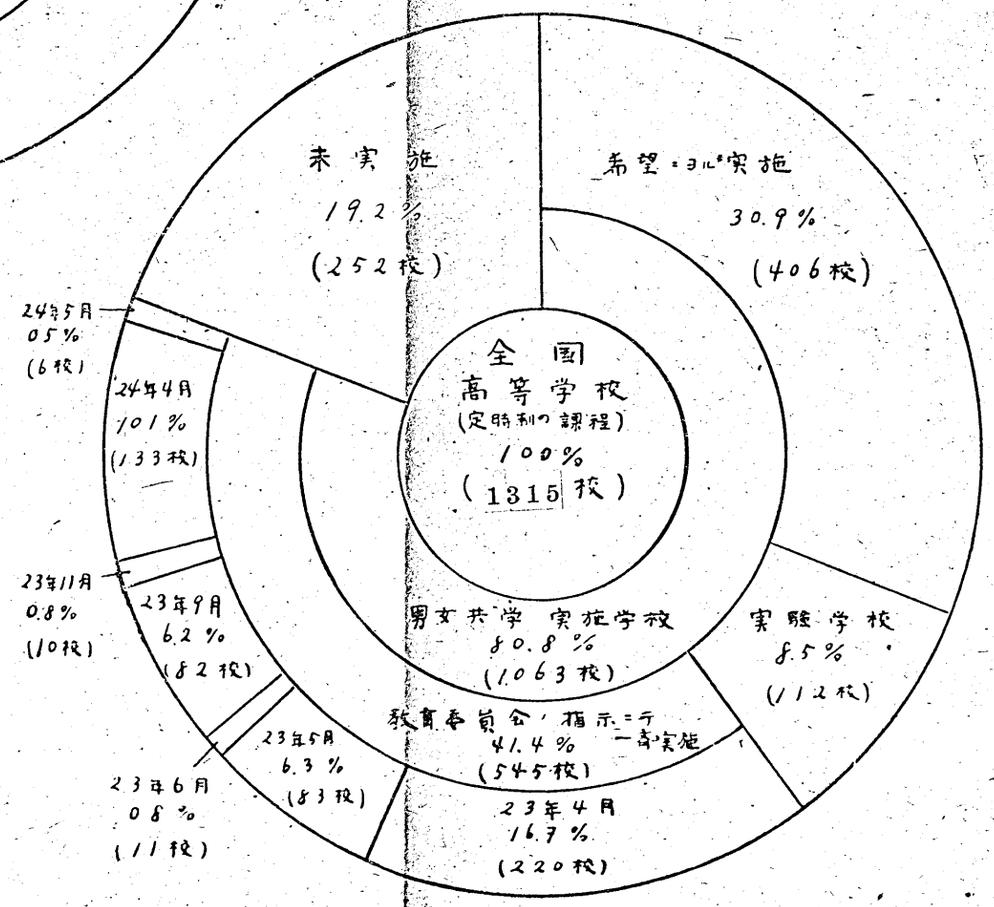
全国中学校男女共学実施状況



全国高等学校（通常の課程）男女共学実施状況



全国高等学校（定時制の課程）男女共学実施状況



学校種別	全国中学校男女共学実施状況												
調査項目	一斉に実施した		実験的に実施した学校数	希望によって順次実施した学校数	実施学年内訳							実施学校数	全学校数
	学校数	年月			1年	1.2年	1.3年	2年	2.3年	3年	1.2.3年		
北海道	1184	22.4									1184	1184	1184
青森	271	22.4									271	271	271
岩手	269	23.4			6	7					256	269	285
宮城				217	3	5		1	1	1	206	217	229
秋田	241	23.1									241	241	241
山形	257	22.4									257	257	257
福島	384	22.4	4		1	6					381	388	388
茨城	360	22.4									360	360	360
栃木	195	22.4									195	195	195
群馬	228	22.4									228	228	228
埼玉	361	22.4									361	361	361
千葉	327	24.4			14	29					284	327	338
東京	353	22.4			5	14					334	353	355
神奈川	190	22.4									190	190	190
新潟	404	22.5			6	7					391	404	407
富山	106	22.4									106	106	106
石川	219	22.4									219	219	219
福井	185	22.4									185	185	185
山梨	181	22.4									181	181	181
長野				410							410	410	410
岐阜	272	23.4									272	272	272
静岡	338	23.4									338	338	338
愛知	290	22.4									290	290	290
三重	301 177	22.4 23.5									478	478	478
滋賀	78	22.4									78	78	78
京都	118	21.4									118	118	118
大阪													
兵庫	358	22.4									358	358	358
奈良	149	23.9									149	149	149
和歌山	184	22.4									184	184	184
鳥取	101	22.4									101	101	101
島根	256	22.4									256	256	256
岡山				238		1					237	238	238
廣島	226	23.4									226	226	226
山口				233	3	6	1		1		222	233	233
徳島	147	22.5				27					120	147	147
香川	156	22.4	11	1	6	6					156	168	173
愛媛				270	8	8					254	270	270
高知	194	22.4									194	194	194
福岡	268	23.4									268	268	268
佐賀	131	24.4									131	131	131
長崎	245	22.4									245	245	245
熊本	273	23.4									273	273	273
大分	252	21.4									252	252	252
宮崎	122	22.4									122	122	122
鹿兒島	223	23.4									223	223	223
總計	10.574		15	1369	52	116	1	1	2	1	11.785	11.958	12.007
内訳	370 6757 551 241 1869 177 149 458	21.4 22.4 22.5 23.1 23.4 23.5 23.9 24.4											

学校種別	全国高等学校（通常の課程）男女共学実施狀況												
調査項目	一斉に実施した		実験的に実施した学校数	希望によって実施した学校数	実施学年内訳							実施学校数	全学校数
	学校数	年月			1年	1.2年	1.3年	2年	2.3年	3年	1.2.3年		
北海道				31	5	10					16	31	124
青森			15		7	3					5	15	32
岩手	27	23.4			11	7					9	27	30
宮城				4	1	1			1		1	4	53
秋田				9	1	5					3	9	38
山形			17		17							17	37
福島			8	8	4	6					6	16	51
茨城	21	24.4			17	3					1	21	49
栃木				16	13	1					2	16	41
群馬			11		8	3						11	46
埼玉				5	3	2						5	49
千葉	39	24.4			22	6					11	39	65
東京			53		42	4					7	53	101
神奈川			11		5	3					3	11	53
新潟				20	7	6					7	20	64
富山	22	23.9									22	22	22
石川	15	24.4									15	15	15
福井	13	22.4									13	13	13
山梨				2	1	1						2	27
長野				32	17	8					7	32	79
岐阜	27	23.8									27	27	30
静岡	44	24.4			19	9					16	44	59
愛知	40	24.4									40	40	40
三重	18 23	23.5 24.4									41	41	41
滋賀	9	23.4									9	9	9
京都	25	23.10	1		1						25	26	26
大阪													
兵庫	81	24.4									81	81	81
奈良	16	23.9									16	16	16
和歌山	20	23.5				2					18	20	21
鳥取	11	24.4									11	11	11
島根	21	24.4									21	21	21
岡山				10	3	5					2	10	35
廣島	46	24.5									46	46	46
山口	23	24.4			8	3					12	23	46
徳島	21	24.4									21	21	21
香川	12	24.5	2		8						6	14	26
愛媛				17	4	5					8	17	48
高知	18	22.9									18	18	22
福岡	52	24.4			40						12	52	79
佐賀	15	24.4	4		6	4					9	19	19
長崎	22	24.4			5	2					15	22	27
熊本	27	23.4									27	27	29
大分	20	23.4			1	2					17	20	23
宮崎	13	23.4									13	13	13
鹿兒島	39	23.4			4	7					28	39	48
總計	780		122	154	280	108			1		667	1.056	1.826
内訳	13 18 135 38 27 38 25 428 58	22.4 22.9 23.4 23.5 23.8 23.9 23.10 24.4 24.5											

学校種別　全国高等学校（定時制の課程）男女共学実施状況（（　）は分校を區別しない学校）（（　））は独立校だけの学校）

調査項目	一齊に実施した学校数	年月	實驗的に實施した學校數	希望によって實施した學校數	実施学年内訳 1年	1.2年	1.3年	1.4年	2年	2.3年	2.3.4年	3年	4年	1.2.3年	1.2.3.4	実施学校數	全学校數
北海道				(81)	(20)	(24)								(37)		(81)	44
青森	23	23.4				11								8	4	23	23
岩手	27	23.4				27										27	31
宮城				21	5										16	21	37
秋田				16	1	9								6		16	20
山形	45	23.4													45	45	45
福島			8	18	8	9									9	26	32
茨城	22	23.5			10	12										22	31
栃木				14	8	2							1		3	14	16
群馬	6	24.5	12		2	1				6		1			8	18	40
埼玉				7	2									1	4	7	22
千葉	10	24.4			5	3									2	10	36
東京			69												69	69	92
神奈川			18		5	7									6	18	35
新潟				36	2	14								3	17	36	47
富山	6	23.9													6	6	20
石川	12	23.9													12	12	12
福井	11	23.4													11	11	11
山梨	15	23.9													15	15	15
長野				(136)											(136)	(136)	52
岐阜	((9))	23.9													((9))	((9))	32
静岡	34	24.4			10	19									5	34	43
愛知	15	24.4				2									13	15	26
三重	18	23.5													18	18	18
滋賀	5	23.9													5	5	7
京都	23	23.9													23	23	25
大阪																	
兵庫	24	24.4													24	24	36
奈良	10	23.11													10	10	10
和歌山	12	23.9			5	4		1						2		12	16
鳥取	14	24.4													14	14	14
島根	10	24.4													10	10	10
岡山				11	1	2									8	11	46
廣島	43	23.5													43	43	43
山口				14	6	6								2		14	32
徳島	19	23.4													19	19	19
香川	11	23.6	3		1	3									10	14	19
愛媛				31	5	7									19	31	40
高知				6	5	1										6	20
福岡				15											15	15	64
佐賀	9	24.4			4	4	1									9	15
長崎	17	24.4													17	17	17
熊本	25	23.4													25	25	25
大分	19	23.4			1	2									16	19	23
宮崎	12	23.4													12	12	12
鹿兒島	39	23.4	2		8	4									29	41	42
總計	545		112	406	114	173	1	1		6		1	1	59	707	1.063	1.315

内訳		
	220	23.4
	83	23.5
	11	23.6
	82	23.9
	10	23.11
	133	24.4
	6	24.5

Ⅱ　調査学校における男女共学の実態調査

(1) 共学に対する生徒の賛否

生徒の賛否については次の表によつて無記名調査した。

	一年			二年			三年			總計		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
賛	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人
否	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人
どちらでもよい	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人
無関心	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人
計	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人	人 / %	人 / %	人

この資料に基づき学校としての傾向を見るために次のような段階をつけ各段階に属する学校数を集計した。（賛成数をA, 反対数をB, どうでもよい数をC, 合計G）

非常に賛成	賛成	どうでもよい	反対	非常に反対
$A > 2B$	$A > B$	$C > \frac{G}{2}$ $A \fallingdotseq B$	$A < B$	$2A < B$

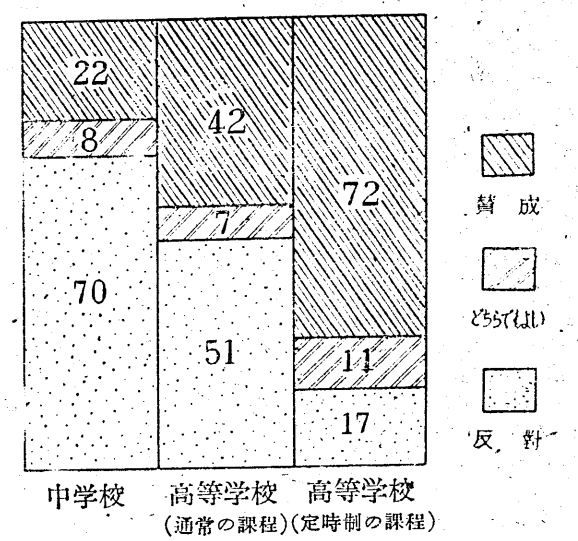
（学校によつては賛否しか回答して来ていないものもある）

以上の方法で次の結果を得た。

学校種別	学校数	この項に回答した校数	非常に賛成	賛成	どうでもよい	反対	非常に反対
中学校	201	199	24	20	19	50	86
			44 (22%)		19(8%)	136 (70%)	
高等学校（通常の課程）	207	204	33	53	13	71	34
			86 (42%)		13(7%)	105 (51%)	
同上（定時制の課程）	90	88	42	21	10	7	8
			63 (72%)		10(11%	15 (17%)	

これを見ると共学に対する生徒の意見は年令を逐つて賛成の傾向にあるといえる。

以上の数字をグラフにすると次のようになる
（数字は%を示す）



次に学校等より提供された資料の中に賛否の理由を生徒に対して尋ねたものがあるので参考までに引用してみる。

1. 新居濱西中学校からの報告

（この数字はすべて%であつて調査人数が附記されてないのは残念である）

賛成理由		男女同権を実現するため	学習上の便利と向上	相互の理解	社会状態に従つて	情操の陶冶	人間本来の在り方である故	其の他	解答なし	計
一年		4	33	7	7	19	4	11	15	100%
二年		4	26	18	10	8	10	2	22	100%
三年		2	43	18	2	7	0	0	28	100%
全校	男	3	23	11	5	15	5	5	32	100%
	女	4	40	17	6	7	4	2	20	100%
	小計	3	36	16	6	9	4	3	23	100%

反対理由		男女間の認識不足	男女の相異からくる学習上の不便	無意識的性的問題	男女の性格悪化	在來の風習と異るから	先生が差別する	其の他	解答なし	計
一年		23	19	2	8	2	0	0	46	100%
二年		22	29	3	0	0	0	8	38	100%
三年		0	33	3	3	0	0	9	52	100%
全校	男	25	28	1	3	1	0	5	37	100%
	女	23	20	4	10	0	0	6	37	100%
	小計	24	26	2	5	1	0	5	37	100%

この結果について学校では次のように述べている。

イ、反対の理由としては「男女間の認識不足」と「男女の相異からくる学習上の不便」を指摘するものが多い。

ロ、男女間の認識不足を理由とする反対意見は、高学年に進む程減少し、三年生では皆無であり、学習上の不便を理由とするものはこの逆の傾向にある。

ハ、反対意見の多くが学習上の不便を理由としたことと対稱的に、賛成意見の大多数が学習上の便利を理由としていること。

2. 高松市立二番町中学校からの報告

	男女共学に賛成（男子の意見）	男女共学に賛成（女子の意見）
三年	1. よい所を取り入れ合う 2. 男子に恥かしいからと女子が努力する 3. 男女の性質がよく分る 4. 男女の理解が出来る 5. 男女が相互に助け合う 6. 教え合い理解し合う	1. よい所をとり入れ合う 2. 男女の理解が出来る 3. お互いに努力する 4. お互いに助け合う 5. お互いに教え合う 6. 民主化がはかれる
二年	1. 教え合い相互の理解が出来る 2. 男子がおとなしくなる 3. 組が分れないで助け合う 4. 男女同権がはつきりする 5. お互いに努力し尊敬し合う 6. よい女子が出来る 7. お互いに批評する 8. 仲よくなりよい所を見習う 9. 競争してよく勉強する	1. 互いに教え合い助け合う 2. 相互の理解が出来る 3. 組がわれない 4. 男女同権がはつきりする 5. 静かになり勉強がし易くなる 6. けんか、らんぼうが少くなる 7. よい女が出来る
一年	1. 互いに正し合う 2. 仲よくなり思い出になる 3. 男も手伝ずるようになる 4. 努力し合い明朗になる 5. よい所を見る 6. 協力して日本再建が出来る 7. 民主化がはかれる	1. 男女同権がはつきりする 2. 競争して勉強する 3. 仲よくなり思い出になる 4. 協力し合い民主化がはかれる 5. 男も家庭の手伝をするようになる

	男女共学に反対（男子）	男女共学に反対（女子）
三年	1. 女子が男子の悪口を言う 2. 自分の意見を発表出来ない 3. 男女間で問題をおこす 4. 気性が合はない 5. 女子は無駄口をきく 6. 自分の思う通り出來ない 7. すぐ女子が笑うからいけない 8. 教室の風紀が乱れる	1. 男子はあつかましい 2. 女らしさがなくなる 3. 男子はよく暴れる 4. 発表がにぶる 5. 大して効果がない 6. 行ぎが悪くなる 7. 何事によらず一致せぬ
二年	1. 自分の思う通り言へない 2. 女子はよく笑う 3. 女子がおてんばになり男女の特性を失う 4. 女子はつまらぬことをよくうわさする 5. 女子はすぐつげる 6. はづかしいそして不親切である	1. 男子はいじ悪で一致しない 2. 女子の行ぎが悪くなる 3. よくしやべりおてんばになる 4. 男子がいじめる 5. 男子は掃除しない
一年	1. 男女対立して気が合わない 2. 女子がおてんばとなる 3. 将来よくない 4. 女子はすぐおこりやすい 5. 選挙の際不公平となる	1. 男子が掃除しない 2. 女子の言うことをきかない 3. あてつけたりからかつたりする 4. 男子は利已主義で無理をする 5. 尊敬しない

男女共学はどちらでもよい

三年
1. 活潑になり理解が深まる
2. 不行ぎになるが明朗になる
3. 互いに助け合い男女差がなくなる
4. 思う通り言へない
5. よい所を見習う
6. 教育が平等になる
7. 男女に善悪がある

二年
1. よい所をまねる、よく知り合う
2. 女はよくしやべり男は乱暴である
3. 教え合い助け合う
4. 女らしくなくなる
5. 一しよに並ぶのは行きすぎだ
6. 日本的でない

一年
1. 男女お互いに学び合う
2. 協力し助け合う
3. 気が合わぬ、男子は乱暴である
4. 情深くなる
5. 気が荒くなる
6. 先生にまかせる

3. 熊本県立八代高等学校からの報告

	共学を良とする	人員	%	共学を悪とする	人員	%
1	理解できる	323	31	風紀悪くなる	158	15
2	勉強できる	297	29	男女中性化する	114	11
3	美化された	269	26	交際の行すぎ	95	9
4	服装がよくなる	165	16	女が女らしさを失う	76	7
5	張合がある	102	10	そうぞうしくなつた	64	6
6	長所を学ぶ	79	8	華美になつた	53	5
7	女子勞力向上	67	6	禮ぎが乱れた	46	4
8	禮ぎよくなる	62	6	氣が散る	45	4
9	明朗になる	61	6	男らしさを失う	44	4
10	協力できる	52	5	不自由になつた	38	4

（10位迄とする、%は記入人員に対するもの）

4. 福島県教育委員会が所管の高等学校生徒に対して行つた調査の報告

	回答を得た人数	賛成率	主なる理由	不賛成率	主なる理由	中立
男子のみの学校（8校）	3329人	32.5%（1082人）	1. 両性の理解のため 2. 民主主義達成のため 3. 成績が向上するため 4. 校内が美化するから 5. 新教育法に則り	59.7%（1988人）	1. 時期尚早 2. 設備不完全 3. 風紀が乱れるから 4. 訓練が不十分だから	7.7%（259人）
女子のみの学校（12校）	7440人	24.6%（1837人）	1. 学力の向上のため 2. 男女間の理解をます 3. 学力に男女の差がなくなる 4. 男女平等の立場から 5. 男女の正しいあり方から	75.3%（5603人）	1. 時期尚早 2. 設備不完全 3. 風紀が乱れるから 4. 男女に学力差があるから 5. 女らしい教育をしてもらうため 9. 校内が乱れるから	
男女併置の学校（15校）	4166人	47.8%（1995人）	1. 男女の理解を深める 2. 相互に刺戟し合う 3. 男女同権だから 4. 教養・学力の平均から 5. 教育の民主化のため	49%（2038人）	1. 風紀の問題から 2. 時期尚早 3. 設備不完全 4. 女らしさがなくなる 5. 男は乱暴だから	3.2%（133人）

5. 鳥取西高等学校からの報告

学年 / 項目	一年				二年				三年				合計			
	市	%	郡	%	市	%	郡	%	市	%	郡	%	市	%	郡	%
非常に賛成	7	5.1	0	0	0	0	1	1.1	3	5.9	1	2.1	10	3.7	2	0.83
共学の方がよいと思ふ	50	43.9	27	29.3	35	33.0	16	16.2	16	31.4	17	35.4	101	37.4	60	25.1
共学でない方がよいと思ふ	27	23.7	25	27.1	32	30.5	42	42.4	12	23.5	10	20.8	71	26.2	77	32.2
非常に不賛成	4	3.5	7	7.6	10	9.5	11	11.1	2	3.9	1	2.1	16	5 92	19	7.9
分らない	10	8.8	15	16.2	13	12.4	15	15.2	5	9.8	13	27.1	28	10.3	43	17.9
どちらでもよい	17	14.9	18	19.6	15	14.3	14	14.1	13	25.5	6	12.5	45	16.7	38	15.9
小計	114		92		105		99		105		48		270		239	

学年及% / 項目	一年	%	二年	%	三年	%
非常に賛成	7	3.4	1	0.5	4	4.0
共学の方がよいと思ふ	77	37.4	51	25.0	33	33.3
共学でない方がよいと思ふ	52	25.2	74	36.2	22	22.2
非常に不賛成	11	5.3	21	10.3	3	3.0
分らない	25	12.1	28	13.7	18	18.2
どちらでもよい	35	16.9	29	14 2	19	19.2
小計	206		204		99	

(2) 共学に対する教師の賛否

教職員の賛否については次の表によつて調査した。

非常に賛成	共学の方がよいと思ふ	共学でない方がよいと思ふ	非常に不賛成	分らない	どちらでもよい	計
人	人	人	人	人	人	人
%	%	%	%	%	%	%
理由						

生徒の場合と同様の方法で集計し、次の結果を得た。

	調査校数	これに回答した校数	非常に賛成	賛成	分らない	反対	非常に反対
中学校	201	201	22	164	6	9	—
高等学校(通常の課程)	207	201	8	164	9	20	—
同上(定時制の課程)	90	88	17	63	5	3	—

教師についての調査は各学校とも大部分の教師は賛成であるが各項目別に書かれた意見、理由については相当に参考になることもあるし、また今後の指導面に有益であるのでまとめてみることにする。

(Ⅰ) **非常に賛成の教師の意見** (中学校、高等学校、大体において同様)

1. 共学の方が自然である。
2. 男女同権の基本理念よりみて。
3. 異性を知り理解し合う。
4. 共学によつて有効になる教科指導がある。
5. この期間に別にすると人間発達上に不自然である。

(Ⅱ) **賛成の教師の意見**

1. 異性相互の理解。

2. 女子の劣等感をなくし向上をはかる。
3. 男子が同権を理解し長短相補を自覺する。
4. 男女両性の放じゆうなる生活に対して正しい教養を得る。
5. 明るく朗かにする。
6. 男子は粗暴でなくなり女子はじよう舌でなくなる。

（Ⅲ）反対の教師の意見

1. 施設、設備の不完全。
2. 身心共に特質が違つている。
3. 男女とも特ちようがなくなる。
4. 男が不活潑になり、女が乱暴になる。
5. 男女とも落つきがなくなる。
6. 学力差のため指導しにくい。

（Ⅳ）非常に反対の教師の意見

1. 淺薄で外形にとらわれすぎる。
2. 男性の女性化、女性の男性化。
3. 教師自身に經驗がないこと。
4. 社会組織、現狀からは未だその時期でない。
5. 教員組織、特に定員関係から女子教員に適當な人がない。
6. 施設、設備不完全で目がとどかぬ。

（Ⅴ）分らない教師の理由

1. 一長一短で比較し得ない。
2. 実施經驗がないので何ともいえない。

（Ⅳ）どうでもよい教師の意見

1. 何れの場合でもへい害があるから致し方がない。
2. 各学校の方針に従うこと以外に個人としての意見がない。
3. 一長一短であるからどちらでもよい。

これを見ると賛成の者が多く男女の本質的平等という民主的理想に基いた立場からであり反対の者はほとんど男女共学の実態に対する不満足に基いていることがけんきよな傾向として指摘できる。教師に經驗がないために時期尚早を唱えていることもある。

特に反対の教師は中学校より高等学校の方に少し多いようにみえるのは、中学校に比して僅か六ケ月程度の經驗のため未だ不安な時期にあることや、また学力差による指導の困難なことによるものであろうか。

次に各地における調査の若干を掲げてみよう。

1、 鳥取県教育委員会の調査

性別による能力の觀察

学校名＼項目	一般的觀察	科目に就いての觀察 男子のすぐれてゐる科目	科目に就いての觀察 女子のすぐれてゐる科目	備考
米子高等学校西校	女子がすぐれてゐる。男子の積極性が女子に好影響を與へてゐる。			左の觀察は教師側の觀察として述べられてゐるもの
東伯高等学校	女生徒の学力が上る。がいして男子は積極的創造的で女子は之に影響されて活潑化してゐる。	理数科方面	国文科方面	
倉吉高等農業学校	「女子やゝ低きが如し」と述べられてゐる。			
鳥取高等学校東校	「女子が一般に劣つてゐる」と。			「大部分は学力劣る爲、女子はついて行けないで、投げたり卑屈になつたりする傾向認められる」と

学校名＼項目	一般的觀察	科目に就いての觀察 男子のすぐれてゐる科目	科目に就いての觀察 女子のすぐれてゐる科目	備考
鳥取高等学校西校	女子が明確に劣つてゐる	解析（Ⅰ・Ⅱ）化学、英語の順位	音樂、絵画、書道の順位。	三年生においてきわめて共学と女子の関係を深刻に考へる女性も出て來てゐる。なお左の順位は各学年成績上の差によつて決定す。なお別表參照
境高等学校	課外活動は男子優れてゐるに比して女子は学習態度、グループ活動、発表等に於てすぐれてゐる。			

以上の分類は昭和24年9月27日倉吉農業高等学校に於て開催された指導部主任研究会に提出された資料に基いてなされたものです。

2. 鳥取西高等学校の生徒指導要録

個人的、社会的、公民的発達自己反省記録表

男女別 順位 / 行動の特徴	男生徒 1	2	3	4	5	計	女生徒 1	2	3	4	5	計	
社会性	52	28	36	21	39	181	27	21	25	16	29	118	299
幸福感明朗性	44	40	20	20	29	153	56	30	17	14	17	134	287
成功性	7	13	18	12	9	59	16	22	25	14	16	95	152
判断力	30	34	25	42	37	168	7	8	10	11	10	46	214
安定感	7	12	16	12	25	72	5	5	11	6	13	40	112
情緒安定度	4	13	20	14	14	65	4	10	10	12	10	46	111
自信	15	14	26	24	17	96	19	47	40	47	31	184	280
親切禮儀	28	42	46	30	25	171	31	33	42	28	39	173	344
尊敬の態度	22	27	36	39	28	152	22	8	15	13	20	78	230
協調の習慣	11	23	25	26	16	101	9	2	8	4	5	28	129
指導能力	6	8	11	12	12	49	3	6	3	6	4	22	71
勤勞尊重の態度	33	31	19	27	20	130	8	19	26	14	11	78	208
責任ある態度	42	52	47	46	37	224	32	45	41	42	28	188	412
寛容の態度	22	33	26	26	24	131	14	16	13	23	14	80	211
独立の性質	44	51	38	33	25	191	29	27	16	16	24	112	303
正直な性質	39	51	46	36	27	199	13	39	36	39	27	154	353
余暇の善用	13	20	23	28	31	115	12	12	10	16	11	61	176
創造性	16	31	17	32	24	120	6	9	4	22	16	57	177
研究心	28	25	27	33	36	149	15	13	14	27	16	85	234
美への関心態度	34	20	20	28	32	134	21	27	24	23	34	129	263
計	502	568	542	541	507	2660	349	399	390	393	375	1906	

3. 福島縣教育委員会所管の高等学校の教員についての調査

	回答を得た人数	賛成率	主なる理由	不賛成率	主なる理由	中立
男子のみの学校（8校）	192人	70.8%（136人）	1. 民主主義達成指導のため 2. 男女を理解させるため 3. 新憲法の精神から 4. 良き人格の完成のため	29.2%（56人）	1. 時期尚早 2. 設備不完全 3. 風紀上悪い 4. 学力が低下する	
女子のみの学校（12校）	231人	63%（147人）	1. 学力の向上のため 2. 男女平等機会均等の立場から 3. 男女教養が平均する 4. 男女の正しい在り方から 5. 相互の理解の上から	36%（84人）	1. 設備不完全 2. 時期尚早 3. 女子の特性を伸ばし得ないから 4. 男女の問題を起し易い 5. 男子の女性化のため	
男女併置の学校（15校）	373人	84.7%（316人）	1. 教育の機会均等のため 2. 男女相互の理解のため 3. 相互に刺戟し合つて向上するから 4. 男女平等から	15.28人（57%）	1. 時期尚早 2. 風紀問題を起し易い 3. 体質が異るから	

(3) 共学に対する地域社会の賛否

地域社會の調査については次の欄を設けて各学校に調査を依頼した。

Ⅰ 非常に喜んでいる	Ⅱ やゝ喜んでいる	Ⅲ 無関心	Ⅵ やゝ反対している	Ⅴ 非常に反対している

全国集計は次の通りである。

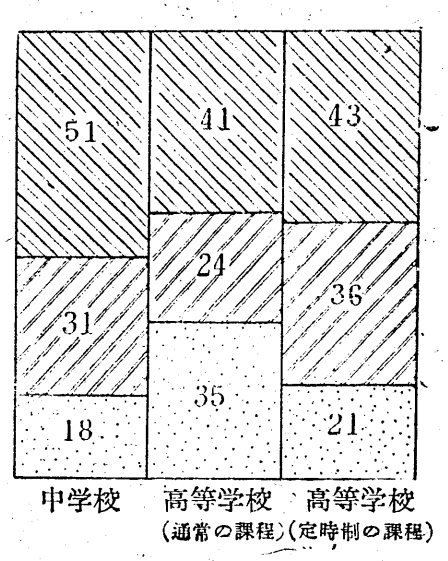
	回答学校数	非常に喜んでいる	やゝ喜んでいる	無関心	やゝ反対している	非常に反対している
中学校（201）	197	10	90	62	34	1
		100	（51%）	（31%）	35	（18%）
高等学校（通常の課程）（207）	197	6	75	48	68	
		81	（41%）	（24%）	68	（35%）
同上（定時制の課程）（90）	84	10	26	31	17	
		36	（43%）	（36%）	17	（21%）

この數字からみると中学校、高等学校何れも賛成の場合が約半数を占めている。特に中学校の場合は51%を示している。これは小学校同様、義務教育に対する通念から當然の様に考えているからであろう。

またこの数字の示すように無関心の率が高く約3分の1であることは注目すべきである。

これをグラフにしてみると次のようになる。

（数字は%を示す）



これを見ると中学校、高等学校（定時制の課程）は大体同じ傾向を持つているが高等学校（通常の課程）だけは別の傾向を持つていることが分る。これは実施日浅く、しかも中学校よりも身心共に不安定な時期であると考える社会の批判であろうか。

1. 福島県教育委員会が所管下各高等学校の父兄の意見を調査した結果は次の通りであつた。

報告した学校数	回答を得た人数	賛成率	主なる理由	不賛成率	主なる理由	中立
男子のみの学校（8校）	3575人	35.7% 1278人	1. 男女間の理解をます 2. 民主主義達成のため 3. 社交性を養うため 4. 社会の現況から 5. 女子教育向上のため	60.2% (2154人)	1. 時期尚早 2. 風紀問題を起し易い 3. 性教育が不充分だから 4. 設備不完全 5. 学力の差があるから	4.0% (143人)
女子のみの学校（12校）	6337人	16.8% (1098人)	1. 学力が向上するから 2. 男女の正しい在り方から 3. 時代的に當然である 4. 男女のレベルが一様になる 5. 互いに長所を強調する	83.1% 5269人)	1. 時期尚早 2. 風紀が乱れるから 3. 設備不完全 4. 男女に学力の差がある 5. 性的自覺がないから 6. 女らしい教育を望むから	
男女併置の学校（15校）	2995人	44.5% (1334人)	1. 男女相互が理解し合う 2. 相互に学力向上する 3. 男女平等の見地より 4. 女子の学力を向上させるため	53.69% (1608人)	1. 時期尚早 2. 風紀上の問題から 3. 良き監督するなら可 4. 男女特性發達の阻害	1.8% (53人)

鳥西高等学校の調査は次の通りである。

父兄を対象とした共学賛否の調査

項目＼学年	三年	二年	一年
1、共学に非常に賛成	○異性をよく理解しうる ○勉学心向上 ○服装、行動が紳士的になつた	○男女共学は自然の形態であつて、学校のみ別にするのは不自然である ○女子向上のため	○異性を見る眼が肥える ○向学心を刺戟す ○素直にものを云う様になつた ○明朗になつた ○異性が互に理解し合える ○教育の機会均等 ○人格の向上 ○男女が共に生活するのが人間の社会であるから幼時から一緒であるべきだ

学年／項目	三　年	二　年	一　年
2、共学の方がよいと思ふ	○お互を理解し得る ○お互に尊敬しあう習慣がつく ○女性の向学心が刺戟される ○性教育の一助となる ○子供の生活が自然なものになる ○共学によつて、反つて刺戟が緩和され品行方正となる ○緊張し、努力し、眞劍になつて学力が向上する ○異性間の探長補短となる ○視野が広くなる ○人間味豊かな性質が出來る ○男女平等が学問に適用されたものとして ○学校生活また異性との交際にうるほいがある ○家庭における生活態度がよくなつた ○異性をみる眼が養われる	○お互に長所短所を補いあう ○異性を觀察する能力が養成される ○新聞に發表された共学のよい結果を見て ○人格完成に役立つ（相手方の生活態度、勉强態度によつて） ○新社会構成の要素が養われる ○將來結婚の豫備知識を養う所以となる ○情操教育上よし ○恋愛の危險性がなくなる ○女子の向上 ○服裝がよくなつた ○案じていた程でないので ○考方が現実的になつてかつ自然な行き方になつた	○眞に研究を樂しむ ○お互に異性を理解し合うことが出來その特性を認め合える ○勉学態度及進度の向上 ○種々の体驗の機会が與えられる ○禮儀が正しくなる ○男女平等の批判力を養う ○性格が明朗になる ○常識が廣くなる ○男子に対する氣兼ねがなくなる ○社会的視野が広くなる ○將來実際社会生活を爲す爲の基礎を養成しうる ○異性が互に助け合つて勉学に運動に勵むことが自然の行き方である ○從來の男尊女卑の思想がなくなる ○時代に適應していると思う ○親の云うことをよくきくようになつた ○經費節約になる（單独校よりも？） ○以前男女間にあつた間違いは余り異性を遠ざけていたからである ○共学によつて得る点がそれに伴う欠点よりも遙に大である

	三　年	二　年	一　年
3、共学でない方がよいと思う	○性格の異つたものを共に教育するのは困難である ○男女別々にそれぞれの特色をのばして行くべきである ○風紀問題を起し易い ○男女能力の相違あり ○共学によつて氣力がなくなつた ○子供自身が共学を嫌つてゐる ○男生徒の学力の低下 ○男性的な氣を失う ○天眞さを失う	○学校生活が明朗でない ○男性の学力低下および勉学態度の乱れ ○男女兩性の特性を充分発揮するために分離教育を ○異性の社交的交際は家庭において行いうる ○性を感じる年頃であり共学は此の感じを増す ○学問、行儀上よくない ○「女子のおとなしいを圧迫氣味と思います」 ○時期が早い ○落付きがなくなつた ○授業の進行おそい ○互に異性に対する尊敬心を失う様になつた ○学生時代は自己の勉学のみに精進すべきである。異性に接近しない方がよい ○男子は柔弱となり女子は粗暴となる ○男子は「女子がやかましい」とて女子を嫌いまた約束を輕んずる様になつた ○よく遊びはじめた ○授業が多くなつたといつて家の手傳ひをしなくなつた ○男子が女子を圧迫してゐる ○一般にヒステリーになり、共学以前よりも云いつけを守らなくなつた ○身のまわりをかまいすぎるようになつた	○教師の研究が不充分 ○男女は精神力に差がある ○男女学力の差が障害 ○時期尚早 ○行儀、作法、風紀悪化す ○実際教育は実驗ではない ○共学でない方が落ついて勉强出來る ○男子の学力低下 ○風紀問題の起る懸念ある ○登校時間が早すぎ、下校時間が遲すぎる ○両性とも各々の特性を充分発揮することが出来ない ○心理的にも肉体的にも変化の激しい時であるから不安である ○現在の社会事情及び生徒の思想狀態では益なし ○男性的な熱がとぼしくなつてきた ○共学を実行するためにはもつと教育者を訓練しなければ不充分である ○親としては賛成であるが子供が嫌うから

	三　　年	二　　年	一　　年
4、共学は非常に不賛成	○青春期なるため問題を起し易い ○男女は將来家庭的に社会的に自らその心構えが相違する ○大成を期し難い ○日本人には不適当 ○服装言語に不必要な装飾を好む様になつた ○家庭における起居が落着かない ○常に夜おそくまで家庭外で過ごす	○生徒が墮落した ○勉強しなくなつた ○学力の低下 ○男女各々の特性を失ふ ○質実剛健の気風に乏しくなり未成年者の共学は親にとつて不安が多い ○意志薄弱となり精神狀態がわるくなつた ○子供が嫌う ○良い点が生徒を通じて現われてゐない ○学校の設備、風紀、能力の差から	○風紀が乱れる ○向学心低調 ○生徒がだらしなくなつた ○女性としての優しさが失はれる ○精神発育の不均一 ○基礎的訓練の不足
5、分らない	○共学の影響が未だ現れない ○良否を断定することは今は早すぎる ○学校のことまで手がとどかない ○学校に出る機会がない（郡部にいるため）	○共学について話さないから分らない ○共学の長短が相半ばしていて言いきれない ○特別変つた精神態度をとつてゐない ○以前に比して変化なし ○過渡期でその結果が分らない	○共学に興味を特つて観察してゐないし、また悪くなつた様子も見受けられない ○日数が淺くて分らない ○子供の性質から見てその良否を論ずべきものなし ○学校の内容を知らない ○関心なし
6、どちらでもよい	○利害相半ばしてゐる （利）社会を見る眼が養われる （害）虚榮心の助長 青年の純眞さを害する ○何も分らない爲、どちらでもよい ○共学以前と変りなし ○共学制度でも分離教育でも、どちらでもかまはない。結局之を運用して行く教育方針、学校のやり方によつて良くもなり悪くもなる	○以前と別段変りなし ○学生がそれぞれ自覺し責任を以て勉学すればどちらでもよいのだ ○何れ大勢に順ずること ○一つの市の中に共学の学校とそうでない学校とを置き、子供の個性によつて選ぶべきである ○良い点悪い点相半ばしてゐる	○変りなし ○良しとも悪しとも結果不明 ○眞面目な子供に問題なし ○一長一短あり

(4) 共学によつて最も効果のあると思われる生徒活動

調査学校あての調査には次の欄を設け、適当の欄に○印をつけるよう依頼した。

Ⅰ 教科の学習	Ⅱ ホームルーム	Ⅲ 生徒会	Ⅳ クラブ活動	Ⅴ 余暇利用

これを集計すると次の通りになる。（但し学校によつては2ないし3ヶ所に○印をつけた所もあるので数字は調査した学校数よりも多くなつている。）

種別	選定校数	教科の学習	ホームルーム	生徒会	クラブ活動	余暇利用	計
中学校	207	35	81	107	42	1	266
高等学校（通常の課程）	201	29	55	56	90	6	236
同上（定時制の課程）	90	28	20	40	25	2	115

これを効果のある生徒活動の順に排列すると次のようである。

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
中学校（学校数）	生徒会 (107)	ホームルーム (81)	クラブ活動 (42)	教科の学習 (35)	余暇利用 (1)
高等学校（通常の課程）（学校数）	クラブ活動 (90)	生徒会 (56)	ホームルーム (55)	教科の学習 (29)	余暇利用 (5)
同上（定時制の課程）（学校数）	生徒会 (40)	教科の学習 (28)	クラブ活動 (25)	ホームルーム (20)	余暇利用 (2)

すなわち中学校では生徒会、ホームルーム、高等学校通常の課程ではクラブ活動と生徒会、高等学校定時制の課程では生徒会、教科の学習においてそれぞれ効果が多いと考えられる。

これは一面共学とは別に現段階の中学校、高等学校の各学校の生徒活動の実態を示すものとも考えられるので一概に共学と結びつけることは危険である。

(5) 共学にした方が指導し易い教科

各調査学校あてに次の表に Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ の順に指導し易い教科名の記入を依頼した。

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ

学校の傾向として判断し得ないので Ⅰ=5, Ⅱ=4, Ⅲ=3, Ⅳ=2, Ⅴ=1 の五点法として全国的に集計して次の結果を得た。

中学校

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
社会	国語	音樂	英語	理科	数学	家庭	職業	図画工作	習字	保健体育
858	433	278	225	158	130	122	101	73	42	12
35%	18%	11.5%	9%	7%	5%	5%	4%	3%	2%	0.5%

高等学校（通常の課程）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
社会	国語	音樂	藝能	理科	英語	数学	職業	保健体育	家庭
693	430	377	235	169	147	77	60	24	11
30%	20%	17%	10%	7.5%	7%	4%	3%	1%	0.5%

高等学校（定時制の課程）

1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	国語	音樂	英語	理科	数学	藝能	職業	保健体育
344	232	102	74	55	52	32	15	13
37%	25%	11%	8%	6%	6%	3.5%	2%	1.5%

この数字は次の（6）の項目と比較してみる場合には種々の問題が出て來るので（6）の所を参照されたい。

但し中学校、高等学校の通常の課程、高等学校の定時制の課程の三者を比較すると中学校、高等学校の定時制の課程が大体において同じ傾向をとり高等学校の通常の課程だけ英語、藝能が入れ替つていることがわかる。

(6) 男女の学力差

各調査学校あてに次の表に男女別に学力差の認められる教科名をⅠ,Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.Ⅴの順に記入するよう依頼した。

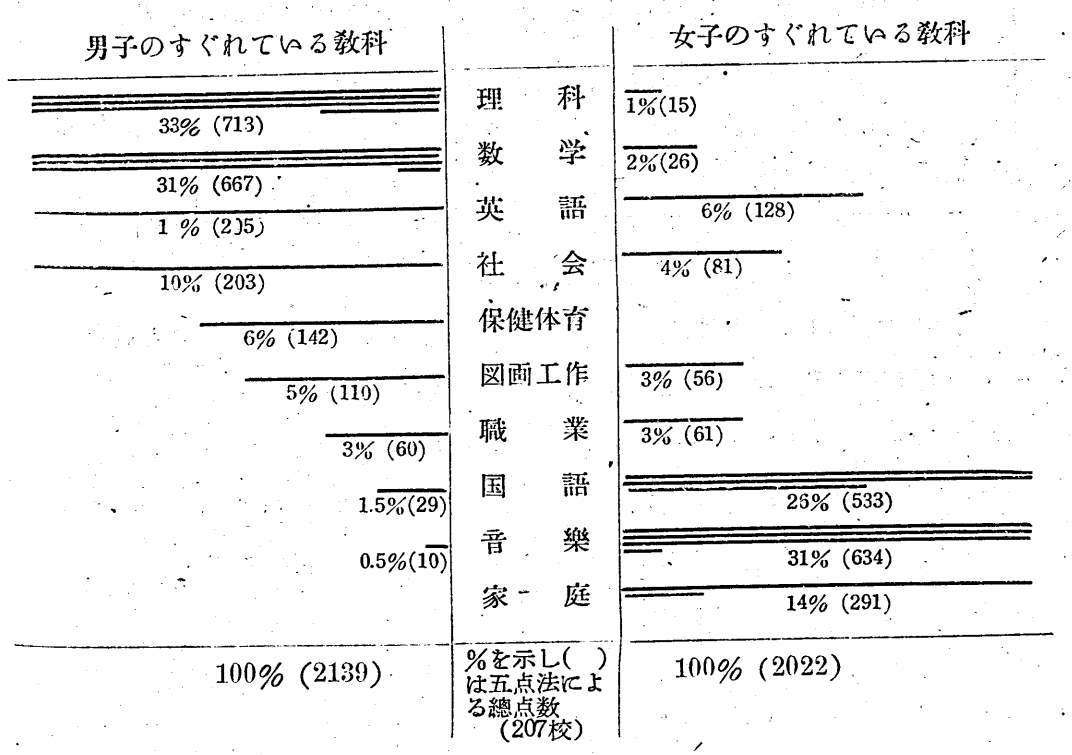
男がすぐれているもの	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
女がすぐれているもの	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ

この集計については（5）と同じ方法を用いた。

中学校

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男のすぐれているもの	理科	数学	英語	社会	保健体育	図画工作	職業	国語	音樂	
	713 33%	667 31%	205 10%)	203 (10%)	142 (6%)	110 (5%)	60 (3%)	29 (1.5%)	10 (0.5%)	
女のすぐれているもの	音樂	国語	家庭	習字	英語	社会	職業	図画工作	数学	理科
	634 (31%)	533 (26%)	291 (14%)	197 (10%)	128 (6%)	81 (4%)	61 (3%)	56 (3%)	26 (2%)	15 (1%)

これをグラフにすると



また男女別に現われた数字から男＞女のときは男－女とし男＜女のときは女－男の数字を出して配列してみる。

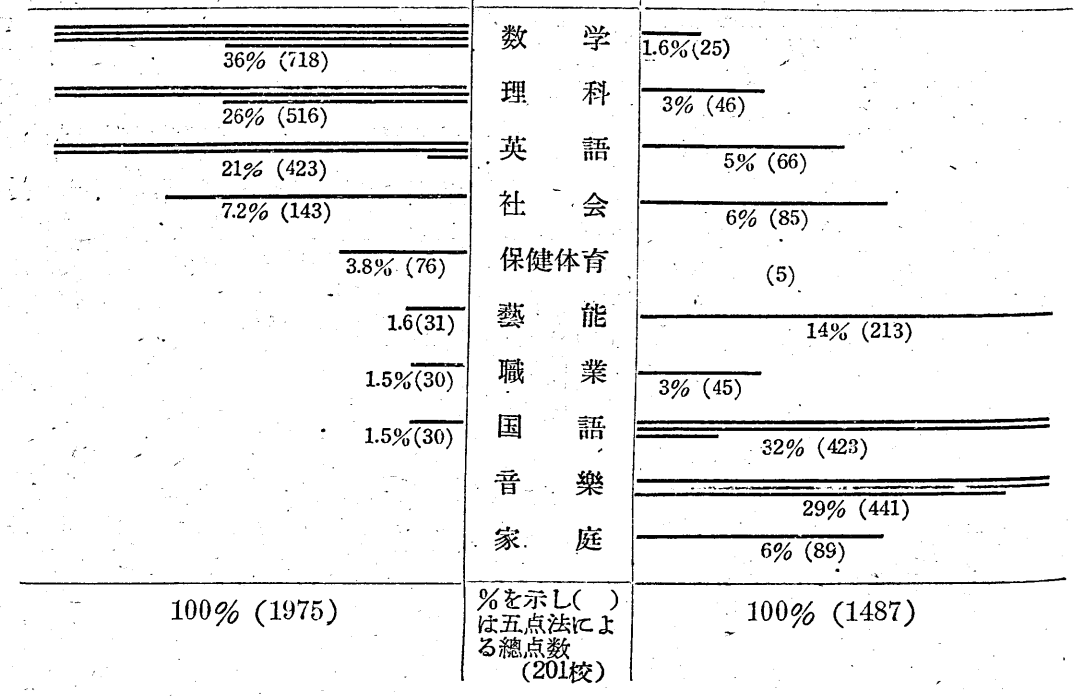
	男のすぐれているもの						女のすぐれているもの				
順位	1	2	7	8	9	10	11	6	5	4	3
教科	理科	数学	保健体育	社会	英語	図工	職業	習字	家庭	國語	音樂
数	698	639	142	122	77	44	1	197	291	504	624
	21%	20%	4%	3.6%	2%	1.4%		6%	9%	15%	18%

但し理科の中、物理・化学関係は男子、博物・生物は女子と報告している学校が多い。また職業でも実習関係特に農業関係では男子、珠算では女子のすぐれていることを報告している。

高等学校（通常の課程）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男	数学	理科	英語	社会	保健体育	藝能	職業	国語	音樂	
	718 (36%)	519 (26%	423 (21%)	143 (7.2%)	76 (3.8%)	31 (1.5%)	30 (1.5%)	30 (1.5%)	5	
女	国語	音樂	藝能	家庭	社会	英語	理科	職業	数学	保健体育
	473 (32%)	441 (29%)	213 (14%)	89 (6%)	85 (6%)	66 (5%)	46 (3%)	45 (3%)	25 (1.6%)	3

高等学校（通常の課程）



	男のすぐれているもの					女のすぐれているもの				
順位	1	2	4	8	9	10	7	6	5	3
	数学	理科	英語	保健体育	社会	職業	家庭	藝能	音樂	國語
	693	473	357	74	58	15	79	183	339	443
	25%	17%	13%	3%	2%	0.5%	3%	7%	12%	16%

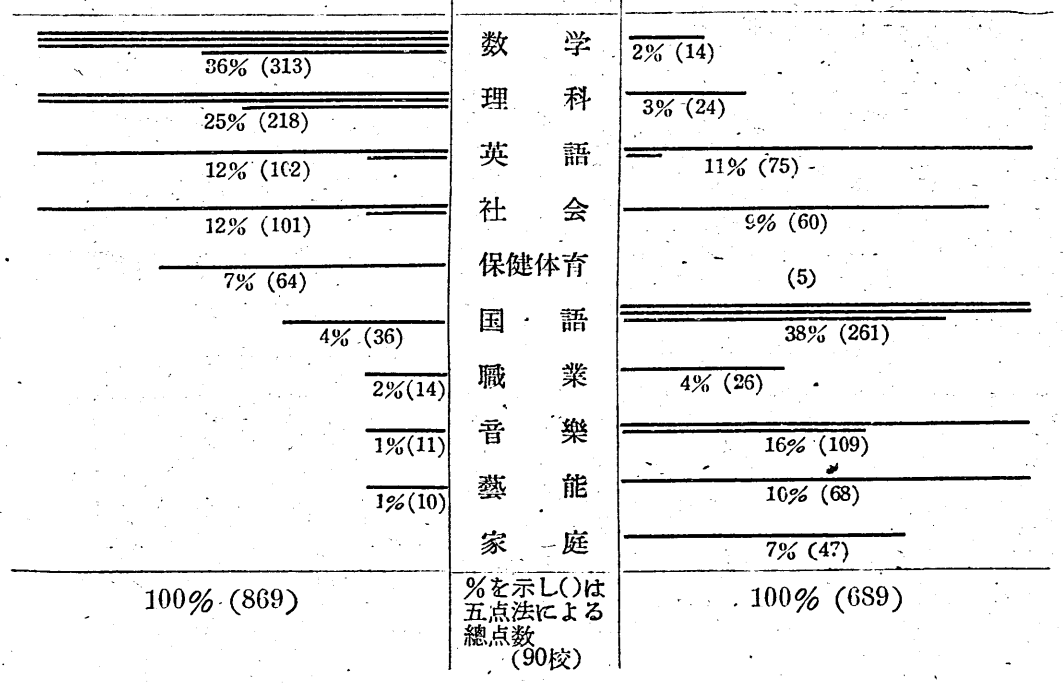
科目名を記入したものは教科名に直して集計した。

なお、理科のうち物理・化学はすべて男子に多く、生物・博物は女子に多く、藝能科では男子の場合は図工、女子の場合は習字のすぐれていることを附記しておく。

高等学校（定時制の課程）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男	数学	理科	英語	社会	保健体育	国語	職業	音樂	藝能	
	313 (36%)	218 (25%)	102 (12%)	101 (12%)	64 (7%)	36 (4%)	14 (2%)	11 (1%)	10 (1%)	
女	国語	音樂	英語	藝能	社会	家庭	職業	理科	数学	保健体育
	261 (38%)	109 (16%)	75 (11%)	68 (10%)	60 (9%)	47 (7%)	26 (4%)	24 (3%)	14 (2%)	5

高等学校（定時制の課程）



	男のすぐれているもの					女のすぐれているもの				
順位	2	3	5	8	9	10	7	6	4	1
	数学	理科	保体	社会	英語	職業	家庭	藝能	音樂	國語
	209	194	59	41	27	12	47	58	98	225
	21%	20%	6%	5%	3%	1%	5%	6%	10%	23%

内容は通常の課程の場合と同様

こゝにおいて（5）の共学にした方が効果のある教科についての調査の結果と比較するために前に集計した学力差（男>女の場合男－女、男<女の場合は女－男）の数を以下の如くに配列してみる。

(5) の場合は1.2.3……11の順位とし

(6) の場合には逆にしてみた。

中　学　校

(5)	社会 35%	国語 18%	音樂 11.5%	英語 9%	理科 7%	数学 5%	家庭 5%	職業 4%	図工 3%	習字 2%	保健体育 0.5%
(6)	職業	図工 1.4%	英語 2%	社会 3.6%	保健体育 4%	習字 6%	家庭 9%	国語 15%	音樂 18%	数学 20%	理科 21%

高等学校（通常の課程）

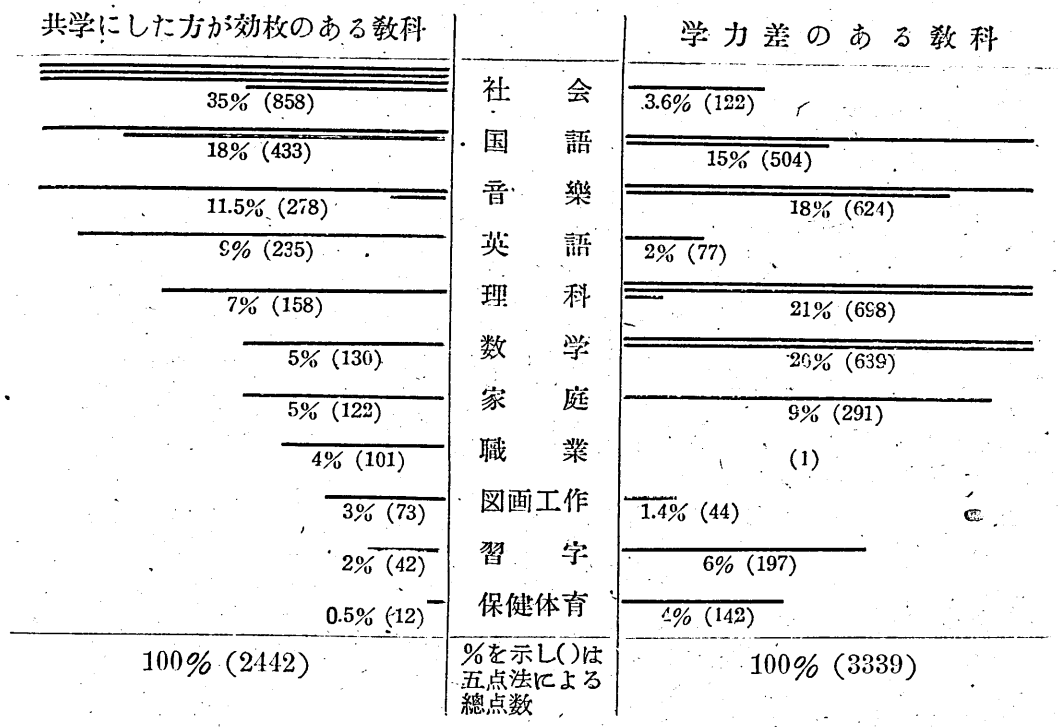
(5)	社会 30%	国語 20%	音樂 17%	藝能 10%	理科 75%	英語 7%	数学 4%	職業 3%	保体 1%	家庭 05%
(6)	職業 0.5%	社会 2%	保健体育 3%	家庭 3%	藝能 7%	音学 12%	英語 13%	国語 16%	理科 17%	数学 25%

高等学校（定時制の課程）

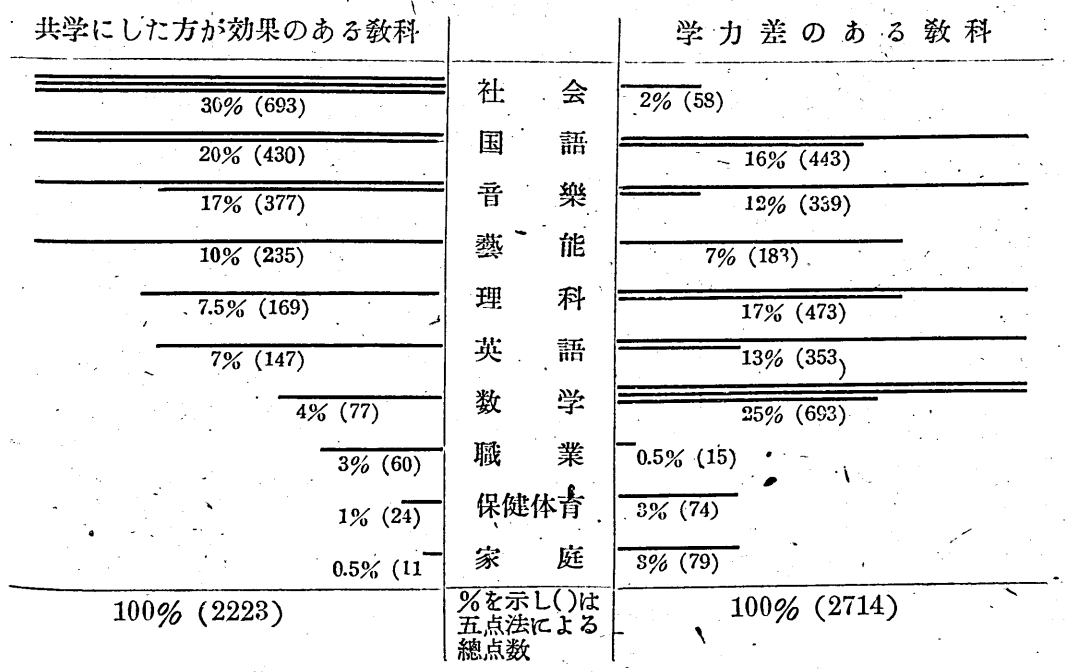
(5)	社会 0.7%	国語 25%	音樂 11%	英語 8%	理科 6%	数学 6%	藝能 3.5%	職業 2%	保健体育 15%	
(6)	職業 1%	英語 3%	社会 5%	家庭 5%	藝能 6%	保健体育 6%	音樂 10%	理科 20%	数学 21%	国語 23%

これをグラフにしてみると次の通りである。

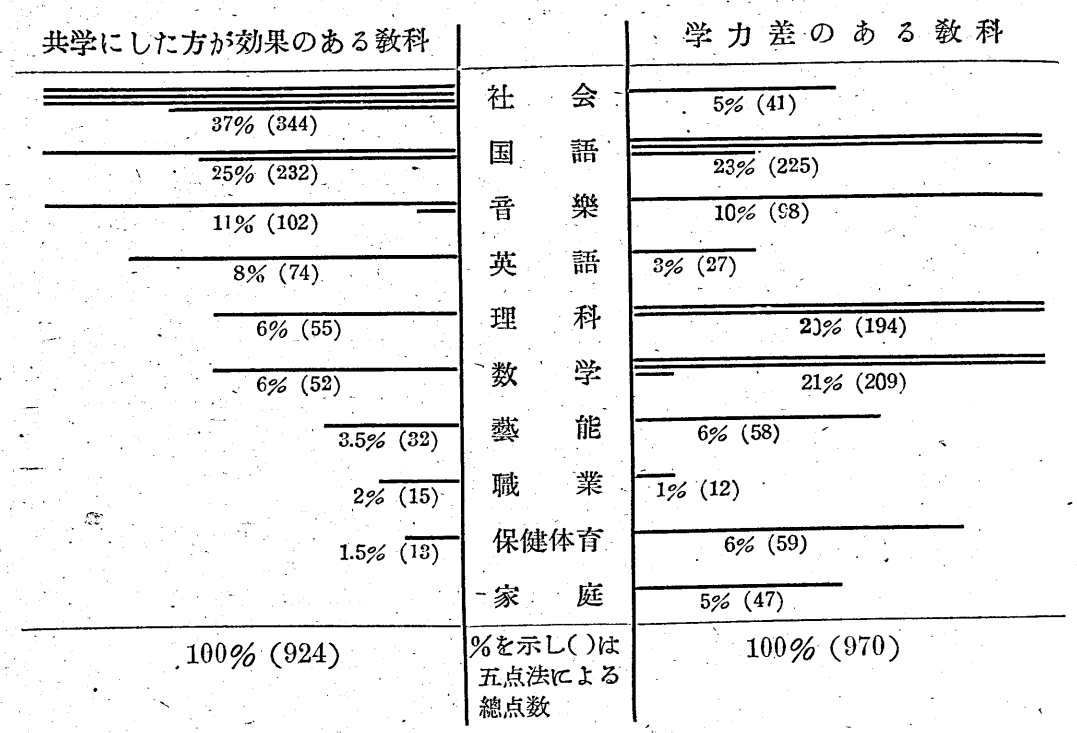
中　学　校



高等学校（通常の課程）



高等学校（定時制の課程）



このグラフをみると学力差と共学の効果との關係については二通の解釋ができると思う。

学力差がないために共学の場合でも指導し易いということと、学力差があるから余計に共学にした方がよいという場合である。教科でいうと前者は社会科、後者は国語がその例ということになる。

なお鳥取西高等学校において学力差について生徒の意見を調査したものがあるので次に掲げてみる。

事項＼学年	男女	一年 男	一年 女	二年 男	二年 女	三年 男	三年 女	計
男女間に学力差があると思ふか	有	145	193	136	134	116	46	770
		55.0%	70.2%	49.0%	11.5%	56.5%	76.8%	52.0%
	無	65	38	43	34	20	5	205
		25.6%	13.8%	15.5%	15.6%	9.75%	8.3%	15.8%
	分らぬ	50	42	94	48	62	7	303
		19.0%	15.5%	23.8%	22.0%	32.0%	11.7%	156%
	不明	3	2	5	2	7	2	21 (1.6%)
	計	263	275	278	218	205	60	1299

共学学科平均点數表　（昭和24年6月施行中間考査）

学年	男女＼科目	国語	世界史	一般社会	人文地理	解解 I II	生物	化学	英語	音樂	絵画	物理	書道	幾何
一年	男	7.2	6.6		5.6	6.7	6.9	6.7	8.1	8.1		7.7		
	人.組	人12組	4人12組		4人	4人12組	1人 1組	1人 6組	1人 4組	1人 3組		1人 5組		
	女	7.1	6.5		3.7	6.5	5.7	6.4	7.9	7.5		7.7		
	人.組													
二年	男	6.4	5.9		5.8	6.5	5.8	6.1	7.7		6.2	7.7	7.1	
	人.組		2人10組		1人6組	2人 6組	2人 7組	2人 9組	1人 4組			1人 4組		
	女	5.7	6.0		5.2	6.9	4.8	5.6	8.2		5.6	7.5	6.1	
	人.組		2人11組											
三年	男	7.1	5.4	6.3	5.6	5.5		6.2	7.6			7.9		
	人.組	1人 6組	2人 4組	2人3組	3人 8組	1人 3組	1人 1組	2人 3組	1人 2組	1人 1組		1人 1組		
	女	7.8	3.6	5.7	4.5		5.9	5.0	7.9			8.0		
	人.組													

(7) 共学後に見られる学力の変化

調査校あてに次の表に記入を依頼した。

	I 非常によくなつた	II やゝよくなつた	III 前と同じ	IV やゝ悪くなつた	V 非常に悪くなつた
男					
女					

この場合に学校としての傾向を見るために

男 Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ　女 Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ を組み合せて

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ	ⅠⅡ	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	
Ⅱ	ⅡⅠ	ⅡⅡ	ⅡⅢ	ⅡⅣ	ⅡⅤ	
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ	ⅢⅢ	ⅢⅣ	ⅢⅤ	
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ	ⅣⅢ	ⅣⅣ	ⅣⅤ	
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計						

の表をつくつた。つまり例を示すと、男子がやゝよくなつて、女子が非常に悪くなつた学校はこの表の ⅡⅤ の欄に入る。また男子がやゝ悪くなつたが女子は従来と同じの場合はⅣⅢの欄に入る。これによつて集計した結果は次の通りである。

各表の（　）内は%を示すことにする。

中　学　校

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 4	ⅠⅡ 3	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	7 (4.2%)
Ⅱ	ⅡⅠ 2	ⅡⅡ 75	ⅡⅢ 12	ⅡⅣ	ⅡⅤ	89 (53.3%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 29	ⅢⅢ 23	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	54 (32.5%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 13	ⅣⅢ	ⅣⅣ 3	ⅣⅤ 1	17 (10%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	6 (3.4%)	120 (72%)	35 (21%)	5 (3%)	1 (0.6%)	167

この表に見られるように共学前に比してやゝよくなつた学校は女子 120校（72%）男子89校（53%）となつている。これは共学によつて女子の学力の向上を示しているものと思われる。悪くなつた傾向は一般に少いがこれは共学実施後に女子の学力が男子との共学によつてひきあげられたことを示しているものである。

高　等　学　校　（通常の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 3	ⅠⅡ	ⅠⅢ 1	ⅠⅣ	ⅠⅤ	4 (2%)
Ⅱ	ⅡⅠ 4	ⅡⅡ 60	ⅡⅢ 2	ⅡⅣ	ⅡⅤ	66 (35%)
Ⅲ	ⅢⅠ 3	ⅢⅡ 49	ⅢⅢ 31	ⅢⅣ	ⅢⅤ	83 (45%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 27	ⅣⅢ 5	ⅣⅣ 1	ⅣⅤ	33 (18%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	10 (5.4%)	136 (73%)	39 (21%)	1 (0.6%)		186

中学校に比してやゝよくなつた学校は女子 136校（73%）男子66校（35%）となつており、女子の場合は変りがないが男子の場合は少くなつている。

しかもこの少くなつただけがやゝ悪くなつた傾向にあるといえる。つまりやゝ悪くなつたのが中学校では男子10%に比して高等学校の通常の課程18%となつている。

このことは高等学校においては共学によつて男子が精神的に動揺していることを示しているものと考えてよいであろう。

高　等　学　校　（定時制の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 3	ⅠⅡ 2	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	5 (6.6%)
Ⅱ	ⅡⅠ 2	ⅡⅡ 24	ⅡⅢ 6	ⅡⅣ	ⅡⅤ	32 (42%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 13	ⅢⅢ 15	ⅢⅣ 1	ⅢⅤ	29 (38%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 6	ⅣⅢ	ⅣⅣ 2	ⅣⅤ	8 (10%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ 1	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	1 (1.4%)
計	5 (6.6%)	46 (60%)	21 (28%)	3 (4%)		75

男、女とも非常によくなつた率が中学校、高等学校の通常の課程より高くなつている。他の点は大体において同様である。

(8) 共学後の学習態度

調査学校に対する調査内容は下記の通りである。

	Ⅰ 非常に積極的になつた	Ⅱ やゝ積極的になつた	Ⅲ 前と同じ	Ⅳ やゝ消極的になつた	Ⅴ 非常に消極的になつた
男					
女					

集計の方法は（7）と同様である。

中学校

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 4	ⅠⅡ 2	ⅠⅢ	ⅠⅣ 1	ⅠⅤ	7 (4%)
Ⅱ	ⅡⅠ 12	ⅡⅡ 93	ⅡⅢ 2	ⅡⅣ 2	ⅡⅤ	109 (60%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 23	ⅢⅢ 17	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	42 (23%)
Ⅳ	ⅣⅠ 1	ⅣⅡ 15	ⅣⅢ	ⅣⅣ 6	ⅣⅤ	22 (13%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	17 (9.4%)	133 (74%)	19 (10.6%	11 (6%		180

共学後の変化としては男女とも積極的になつている傾向である。特に女子の場合は83.4%で大部分はこの傾向になつている。これは学力に見られる傾向と同じと考えられる。学力の変化と比較してみると次の通りである。（数字は%）

		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
男	(7)	4.2	53.3	32.5	10	
	(8)	4	60	23	13	
女	(7)	3.4	72	21	3	0.6
	(8)	9.4	74	10.6	6	

高等学校（通常の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 2	ⅠⅡ 2	ⅠⅢ	ⅠⅣ 1	ⅠⅤ	5 (3%)
Ⅱ	ⅡⅠ 8	ⅡⅡ 73	ⅡⅢ 8	ⅡⅣ 6	ⅡⅤ	95 (53%)
Ⅲ	ⅢⅠ 2	ⅢⅡ 40	ⅢⅢ 13	ⅢⅣ 1	ⅢⅤ	56 (32%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 14	ⅣⅢ 3	ⅣⅣ 3	ⅣⅤ	20 (11%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ 1	ⅤⅢ 1	ⅤⅣ	ⅤⅤ	2 (1%)
計	12 (6.8%)	130 (73%)	25 (14%)	11 (6.2%)		178

学力の変化と同様によい傾向になつて来ている。

女子の場合は79.8%となつており、男子に比して積極的になつている。逆に消極的になつているのは女子の6.2%に比し男子は12%と男子の方が多い。

これも学力の変化と比較してみよう。

		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
男	(7)	2	35	45	18	
	(8)	3	53	32	11	1
女	(7)	10	73	21	1	
	(8)	6.8	130	25	11	

鳥取西高等学校調査に次のものがある。

事項＼学年 男女		一年 男	一年 女	二年 男	二年 女	三年 男	三年 女	計
あなたの学究心はどう變つたか	向上	54	100	24	35	18	23	254
		21.4	36.2	8.1	17.5	9.0	40.3	19.9
	低下	70	36	110	37	52	6	311
		27.8	13.05	37.2	18.5	26.2	10.5	24.3
	不變	126	135	152	121	123	27	684
		50.0	48.9	51.4	60.5	62.0	47.2	53.4
	不明	2	5	10	7	5	1	30
								2.35
	計	252	276	296	200	192	57	1279

事項 ＼ 学年 男 女		一年 男	一年 女	二年 男	二年 女	三年 男	三年 女	計
異性の勉強態度をどうみるか	良	69	25	34	15	48	18	209
		22.0	11.1	11.8	7.2	22.8	24.6	16.1
	悪	75	62	83	70	37	8	335
		24.0	27.4	28 7	35.8	17.7	14.9	25.9
	普通	164	136	165	118	107	31	721
		52 5	60 0	57.0	53.8	51.0	54.5	55.5
	不明	5	3	7	7	18	0	40
								3.7
	計	313	226	289	210	210	57	1305
授業を氣持よく受けられるか	受けられる	69	56	28	37	23	10	223
		24.0	22.8	9.85	17.8	10.95	17.3	17.3
	受けられない	87	52	126	63	76	14	418
		36.3	21.2	44.4	30.3	36.2	24.9	32.3
	普通	125	135	124	104	100	33	621
		43.6	55.1	43.6	50.0	47.6	57.0	48.0
	不明	6	2	6	4	11	1	30 (2.3)
	計	287	245	284	208	210	58	1292

高等学校（定時制の課程）

男＼女	I	II	III	IV	V	計
I	II 6	III	IIII 1	IIIV	IIV	7 (9%)
II	IIII 4	IIII 35	IIIII 2	IIIIV 1	IIIV	42 (55%)
III	IIIII	IIIII 8	IIIIII 11	IIIIIV 1	IIIIV	20 (26%)
IV	IVII	IVII 2	IVIII	IVIIV 5	IVIV	7 (9%)
V	VII	VII 1	VIII	VIIV	VIV	1 (1%)
計	10 (13%	46 (60%)	14 (18%)	7 (9%)		77

学力の変化と比較してみよう。

		I	II	III	IV	V
男	(7)	6.6	42	38	10	1.4
	(8)	9	55	26	9	1
女	(7)	6.6	60	28	4	
	(8)	13	60	18	9	

男女とも積極的になつた傾向ではあるが、通常の課程に比して数字的に多くない。勤労青年には男女の交際が日頃あつて共学実施による影響が少いからであろう。

(9) 共学後の学校内の雰囲気

調査学校あての調査内容は次の通りである。

	I 非常になごやか	II やゝなごやか	III 前と同じ	IV やゝ荒っぽい	V 非常に荒っぽい
男					
女					

集計の方法は（7）と同様である。

中学校

男＼女	I	II	III	IV	V	計
I	II 23	IIII 2	IIIII	IIIIV	IIIIV 1	26 (13.4%)
II	IIII 3	IIII 101	IIIII 10	IIIIV 24	IIIIV 1	139 (71.6%)
III	IIIII	IIIII 6	IIIIII 17	IIIIIV 5	IIIIV	28 (14.5%)
IV	IVII	IVII 1	IVIII	IVIV	IVV	1 (0.5%)
V	VII	VII	VIII	VIV	VV	
計	26 (13.4%)	110 (56.6%)	27 (14%)	29 (15%)	2 (1%)	194

学校内における傾向として男子では85%、女子では70%がなごやかとなつている。但し女子の場合に16%が荒っぽくなつている。これは女性の男性化を示すものであり前者は男子が女子によつておとなしくなつて来たことを示している。

高等学校（通常の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	Ⅰ Ⅰ 15	Ⅰ Ⅱ 2	Ⅰ Ⅲ	Ⅰ Ⅳ	Ⅰ Ⅴ	17 (9%)
Ⅱ	Ⅱ Ⅰ 4	Ⅱ Ⅱ 75	Ⅱ Ⅲ 9	Ⅱ Ⅳ 44	Ⅱ Ⅴ	132 (70%)
Ⅲ	Ⅲ Ⅰ	Ⅲ Ⅱ 9	Ⅲ Ⅲ 13	Ⅲ Ⅳ 7	Ⅲ Ⅴ	29 (15.4%)
Ⅳ	Ⅳ Ⅰ	Ⅳ Ⅱ 4	Ⅳ Ⅲ 5	Ⅳ Ⅳ 2	Ⅳ Ⅴ	11 (5.6%)
Ⅴ	Ⅴ Ⅰ	Ⅴ Ⅱ	Ⅴ Ⅲ	Ⅴ Ⅳ	Ⅴ Ⅴ	
計	19 (10%)	90 (50%)	27 (14.3%)	53 (25.7%)		189

男女ともなごやかになつている傾向にあるが中学校と同様に女子の25.7%が荒っぽい傾向を示している。男子が中学校に比じて荒っぽい傾向がやゝ多いことは注目すべきである。

鳥取西高等学校に次の調査がある。

事項＼学年 男女		一年 男	一年 女	二年 男	二年 女	三年 男	三年 女	計
異性に親密さを感ずるか	感ずる	40	46	31	26	25	5	173
		15.6	16.8	10.4	12.5	11.9	8.8	13.3
	感じない	85	73	146	91	102	26	523
		33.2	26.8	49.2	43.7	48.6	45.6	42.0
	普通	131	151	118	90	72	26	588
		51.2	55.3	39.8	43.3	34.3	45.6	45.2
	不明	0	3	2	1	11	0	17
	計	256	273	297	208	210	57	1301
異性の服装頭髪をどう思ふか	華美すぎる	47	20	27	7	21	2	124
		17.9	6.3	9.1	3.36	10.1	3.4	9.14
	無頓着すぎる	25	20	28	14	22	8	117
		9.4	6.3	9.43	6.73	10.6	13.5	8.63
	普通	193	272	235	184	160	49	1093
		72.6	85.5	79.2	88.4	76.9	83.1	80.6
	不明	1	6	2	3	3	5	22
								1.62
	計	266	318	297	208	208	59	1356

事項＼学年 男女		一年 男	一年 女	二年 男	二年 女	三年 男	三年 女	計
あなたの服装頭髪等はどう変つたか	派手になつた	26	13	27	12	13	0	91
		9.7	5.17	9.1	5.8	6.37		7.06
	地味になつた	15	13	16	5	11	1	61
		5.6	5.17	5.4	2.4	5.4	1.7	4.74
	變らぬ	227	223	254	191	180	58	1133
		84.7	88.9	85.5	91.8	88.2	98.3	88.0
	不明		2					2
								0.16
	計	268	251	297	208	204	59	1287

高等学校（定時制の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	Ⅰ Ⅰ 13	Ⅰ Ⅱ 2	Ⅰ Ⅲ	Ⅰ Ⅳ	Ⅰ Ⅴ	15 (19%)
Ⅱ	Ⅱ Ⅰ 1	Ⅱ Ⅱ 39	Ⅱ Ⅲ 3	Ⅱ Ⅳ 9	Ⅱ Ⅴ	52 (65%)
Ⅲ	Ⅲ Ⅰ	Ⅲ Ⅱ 2	Ⅲ Ⅲ 7	Ⅲ Ⅳ	Ⅲ Ⅴ	9 (11%)
Ⅳ	Ⅳ Ⅰ	Ⅳ Ⅱ	Ⅳ Ⅲ 1	Ⅳ Ⅳ 3	Ⅳ Ⅴ	4 (5%)
Ⅴ	Ⅴ Ⅰ	Ⅴ Ⅱ	Ⅴ Ⅲ	Ⅴ Ⅳ	Ⅴ Ⅴ	
計	14 (17.5%)	43 (54%)	11 (13.5%)	12 (15%)		80

男女とも70%以上がなごやかになつている。この点、中学校、高等学校の通常の課程と同じである。

また女子の荒っぽい傾向も15%で通常の課程の場合よりも少く、このことは勤労生徒の自覚と年令が一般的に上にあることのためと思われる。

(10) 共学が原因となった不良化の問題

調査内容は下記の通りである。

	Ⅰ 激減している	Ⅱ やゝ減じている	Ⅲ 前と同じ	Ⅳ やゝ増えている	Ⅴ 激増している
男					
女					

集計の方法は（7）と同様である。

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 4	ⅠⅡ	ⅠⅢ 1	ⅠⅣ	ⅠⅤ	5 (2.9%)
Ⅱ	ⅡⅠ 5	ⅡⅡ 54	ⅡⅢ 6	ⅡⅣ 2	ⅡⅤ	67 (36%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 6	ⅢⅢ 89	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	97 (52.5%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 3	ⅣⅢ 1	ⅣⅣ 12	ⅣⅤ	16 (8.6%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	9 (4.9%)	63 (34%)	97 (52.5%)	16 (8.6%)		185

従来と同様の数字が多く男女とも52.5%となつている。不良化のやゝ増加している学校は男女とも8.6%となつている。

高等学校（通常の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 1	ⅠⅡ	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	1 (0.5%)
Ⅱ	ⅡⅠ 2	ⅡⅡ 31	ⅡⅢ 10	ⅡⅣ 2	ⅡⅤ	45 (25.4%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 5	ⅢⅢ 94	ⅢⅣ 5	ⅢⅤ	104 (59%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 4	ⅣⅢ 8	ⅣⅤ 15	ⅣⅤ	27 (15.1)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	3 1.1%	40 (23.2%)	112 (63.3%)	22 (12,4%)		177

従来と同じ傾向が最も多く、男子の59%に比し女子は63.3%になつている。但し不良化のやゝ現れた学校が男子15.1%、女子12.4%となつていて中学校の方がやゝ上廻つている。

高等学校（定時制の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	〃
Ⅰ	ⅠⅠ 1	ⅠⅡ	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	1 (1.3%)
Ⅱ	ⅡⅠ 1	ⅡⅡ 15	ⅡⅢ 5	ⅡⅣ	ⅡⅤ	21 (27.6%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ	ⅢⅢ 42	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	44 (58%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 3	ⅣⅢ	ⅣⅣ 5	ⅣⅤ	8 10.5%
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ 1	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ 1	2 (2.6%)
計	2 (2.6%)	19 (25%)	47 (62%)	7 (9.1%)	1 (1.3%)	76

大体通常の課程と同様であるが不良化の傾向はこれらより下廻つていることを示している。たゞ中学校や通常の課程の場合に比して非常に悪い傾向は僅かではあるが現われている。

(11) 共学後の性意識

	Ⅰ 非常に健全になつた	Ⅱ やゝ健全になつた	Ⅲ 前と変らぬ	Ⅳ やゝ憂慮すべきである	Ⅴ 非常に憂慮すべきである
男					
女					

集計の方法は（7）と同じである。

中学校

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 4	ⅠⅡ 2	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	6 (3.3%)
Ⅱ	ⅡⅠ 2	ⅡⅡ 106	ⅡⅢ 6	ⅡⅣ 1	ⅡⅤ	115 (63.2%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 14	ⅢⅢ 38	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	54 (29.7%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ	ⅣⅢ 2	ⅣⅣ 5	ⅣⅤ	7 (3.8%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	6 (3.3%)	122 (67%)	46 (25.3%)	8 (4.4%)		182

やゝ健全になつたという学校が一番多く、男子67%、女子63.2%を示している。健全になつたものは男子66.5%、女子70.3%となる。

やゝ憂慮すべき学校が男子3.8%、女子44%で女子の方がやゝ多い。

高等学校（通常の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 5	ⅠⅡ	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	5 (2.2%)
Ⅱ	ⅡⅠ 1	ⅡⅡ 92	ⅡⅢ 5	ⅡⅣ 4	ⅡⅤ	102 (57.3%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ 6	ⅢⅢ 52	ⅢⅣ 2	ⅢⅤ	60 (33%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 1	ⅣⅢ 2	ⅣⅣ 8	ⅣⅤ	11 (7.5%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	6 (3.3%)	99 (55.6%)	59 (33%)	14 (8.1%)		178

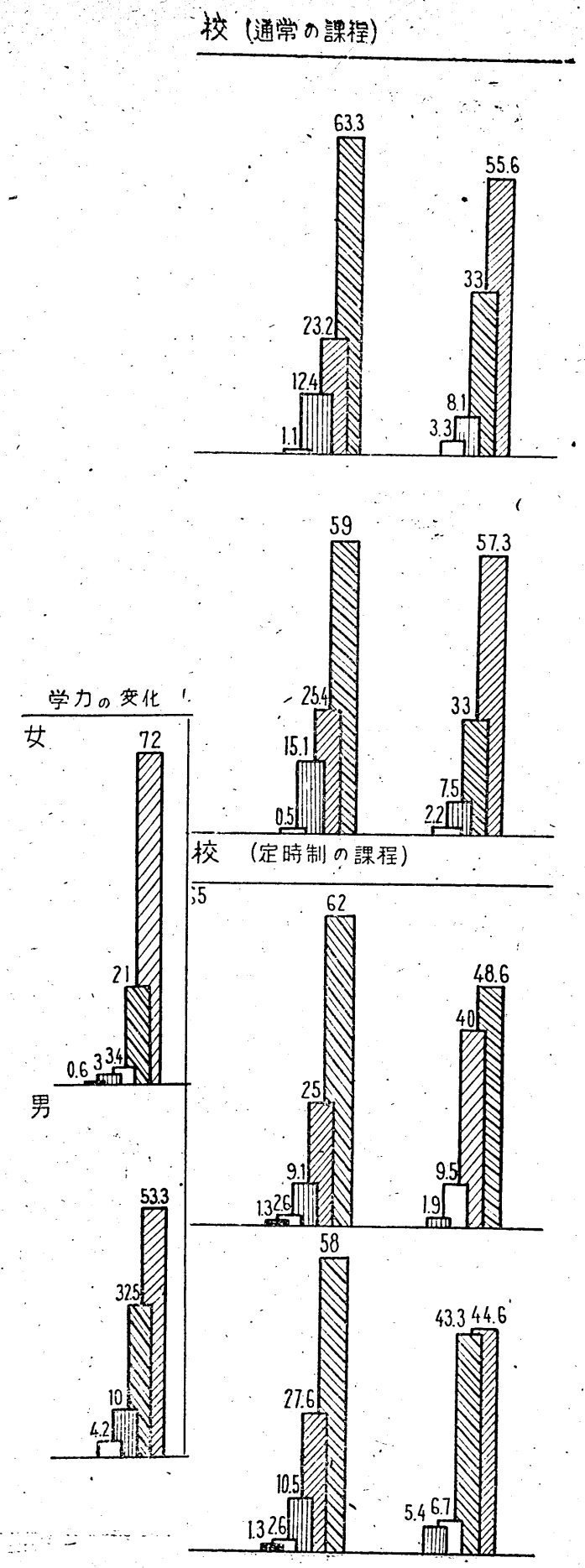
健全になつた傾向が多く男子59.5%、女子59.9%である。但しやゝ憂慮すべきもの男子7.5%、女子8.1%となつていて、中学校に比して約二倍になつているがこれは肉体的にも精神的にも性的に発達した状態にあるためであると思われる。

高等学校（定時制の課程）

男＼女	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
Ⅰ	ⅠⅠ 5	ⅠⅡ	ⅠⅢ	ⅠⅣ	ⅠⅤ	5 (6.7%)
Ⅱ	ⅡⅠ 2	ⅡⅡ 28	ⅡⅢ 3	ⅡⅣ	ⅡⅤ	33 (44.6%)
Ⅲ	ⅢⅠ	ⅢⅡ	ⅢⅢ 32	ⅢⅣ	ⅢⅤ	32 (43.3%)
Ⅳ	ⅣⅠ	ⅣⅡ 1	ⅣⅢ 1	ⅣⅣ 2	ⅣⅤ	4 (5.4%)
Ⅴ	ⅤⅠ	ⅤⅡ	ⅤⅢ	ⅤⅣ	ⅤⅤ	
計	7 (9.5%)	29 (40%)	36 (48.6%)	2 (1.9%)		74

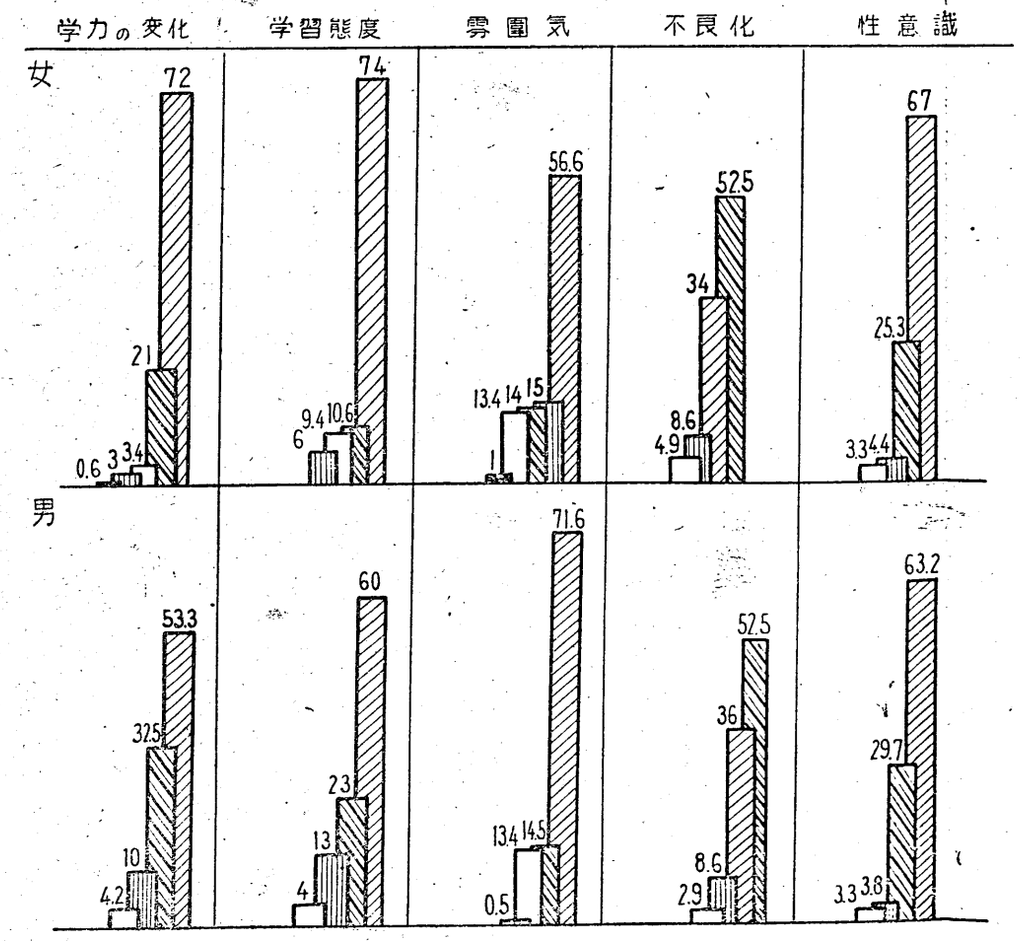
通常の課程に比して性的に非常に健全な状態となつている。

以上の(7)—(11)までをグラフにすると次のようになる。

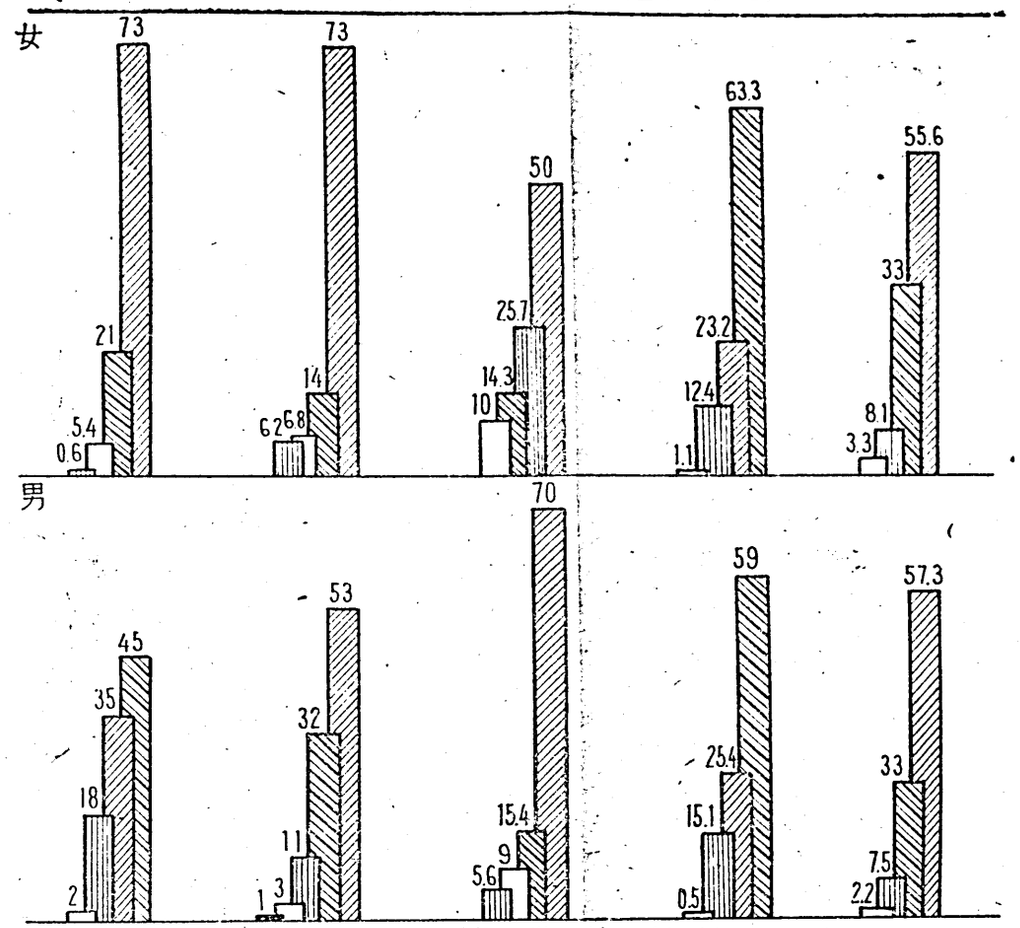


	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
学力の変化	非常によくなった	やよくなった	前と同じ	や、悪くなった	非常に悪くなった
学習態度	非常に積極的になった	や、積極的になった	前と同じ	や、消極的になった	非常に消極的になった
校内雰囲気	非常になごやかになった	や、なごやかになった	前と同じ	や、荒っぽくなった	非常に荒っぽくなった
不良化	激減している	や、減している	前と同じ	や、増えている	激増している
性意識	非常に健全になった	や、健全になった	前と変らぬ	や、憂慮すべきである	非常に憂慮すべきである

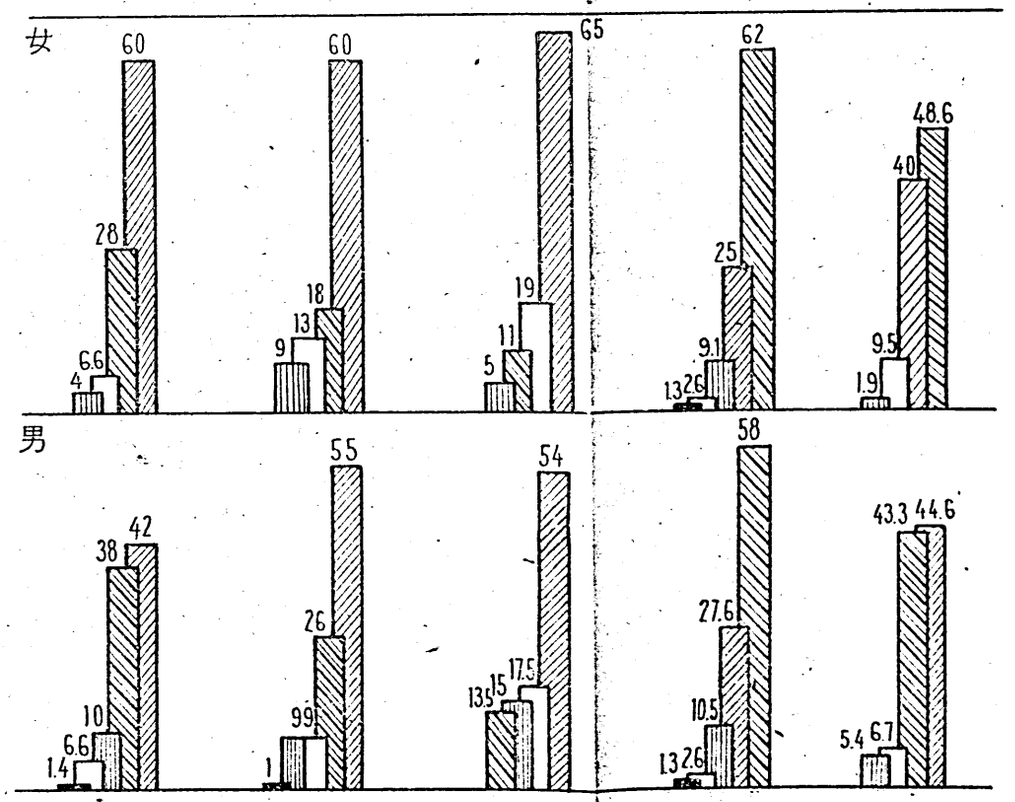
中学校



高等学校（通常の課程）



高等学校（定時制の課程）



このグラフによつて中学校、高等学校通常の課程、高等学校定時制の課程の三者を比較してみよう。

学力の変化においては

高等学校通常の課程の男子を除いてはやゝよくなつた傾向が多いのであるが、高等学校の男子のみが従来と変らない結果になつている。もちろん一般的にみて男子よりも女子が向上していることは（6）において述べたが、中学校に比して高等学校においては通常の課程、定時制の課程とも男子が従来と変らない結果になつている。

これは中学校に比して学習内容が進んでいると共に、女子は男子に刺戟されて学力の低下を自覚した結果、積極的に学習し、向上した結果と思われる。

学習態度については

中学校、高等学校の間に特別な変化はない。

学校内の雰囲気は

中学校、高等学校通常の課程とは男、女同じ傾向であるが、定時制の課程の場合のみ特に異つた傾向が見られる。中学校、高等学校通常の課程の場合でも女子が荒つぽくなつた傾向が多いのに比して男子がよくなつてきているが、定時制の課程の場合は男女ともやゝよくなつた数字がもつとも多く、これにつづいて非常によくなつた数字が現れている。これは年令的に上廻つていることが主なる原因であろう。

不良化の傾向は

中学校、高等学校とも同じ傾向である。

性意識については

中学校、高等学校通常の課程とも同じ傾向にあるが、定時制の課程だけ別の数字になつている。つまり中学校、高等学校通常の課程ともやゝよくなつた傾向が一番多いが、定時制の課程だけは従来と変らない傾向強く、共学によつて特に変化した結果でないことである。これは勤労青年の自覚、日頃の交際、年令等のため共学が彼等に特別な刺戟を與えていない結果と思われる。

374.22

文部省寄贈編入乙